

目録 List

鳥取県立博物館に寄贈された石坂元貝類コレクション—非海産腹足類—

黒住耐二<sup>1</sup>・一澤 圭<sup>2\*</sup>・川上 靖<sup>2</sup>

Catalogue of the Molluscan collection accumulated by the Mr. Hajime Ishizaka  
—Terrestrial and freshwater gastropods—

Taiji KUROZUMI<sup>1</sup>, Kei ICHISAWA<sup>2\*</sup>, and Yasushi KAWAKAMI<sup>2</sup>

**Abstract:** A molluscan collection accumulated by Mr. Hajime Ishizaka, an amateur collector of molluscs, was donated to the Tottori Prefectural Museum in May 2006. The collection comprises thousands of specimens of gastropods and bivalves collected from Japan and other countries. Out of the collection, we listed terrestrial and freshwater gastropods, a total of 1,617 specimens belonging to 167 species (also "subspecies" and "type" are counted in the number) of 24 families. The list includes some important specimens: of an endangered species *Oncomelania hupensis nosophora*, of 2 closely related species *Satsuma myomphala euomphala* and *S. omphalodes* indicating newly information of their geographical distribution, and so on. Some taxonomical and nomenclatural problems were discussed.

**Keywords:** Molluscan collection, Mr. Hajime Ishizaka, terrestrial and freshwater gastropods, *Satsuma myomphala euomphala* and *S. omphalodes*, *Trishoplita* spp.

はじめに

2006年5月、東京都在住の石坂元氏より、氏の収集された貝類コレクションが寄贈された。石坂氏は職務の傍ら、貝類の採集・研究を行っており、勤務地の近隣域や旅行先などで多数の標本を収集され、貴重な発見もされている(石坂, 1985; 湊・石坂, 1989)。とくに鳥取県内に勤務されていた期間(1972~1975年)には、鳥取県産の陸産貝類を精力的に調査され、その成果は鳥取県立博物館研究報告13号に『鳥取県の陸産貝類』としてまとめられている(清末ら, 1976)。今回ご寄贈いただいたコレクションは、その陸産貝類標本を含む、数千点にもおよぶものである。

コレクション中には、シジミ類等の日本産淡水貝類や、各地の海産貝類も含まれていたが、本目録ではまず整理の終了した非海産腹足類(ただし、カワニナ類は除く)をリストとして報告したい。リストの対象範囲は、ほぼ黒田(1963)に準拠している。

今回報告する標本は、石坂氏が北海道から九州・琉球列島までの各地やスペインで自ら採集されたものが

中心となり、谷岡浩・中島良典両氏等の鳥取県ゆかりの方々や高橋五郎氏等の九州貝類談話会会員や鹿取秀雄氏等の阪神貝類談話会会員・志村辰夫氏等の東京貝類同好会会員諸氏の採集品も含まれていた。

石坂貝類コレクション中の興味深い種

今回リストにあげるものは、陸産および淡水産腹足類で、合計24科167種1,617個体である(ただし、種数には「亜種」や「型」もそれぞれ1種としてカウントしてある)。これらのうち、いくつかの興味深い種について、簡単に述べておきたい。分類学的な問題の多くは、リスト中の備考にも記した。なお、種名の後の数字は、リスト内の通し番号を示す。

カタヤマガイ(ミヤイリガイ) *Oncomelania hupensis nosophora* (ROBSON) [18] (図1)

日本住血吸虫の中間宿主として著名な種であるが、戦後にこの寄生虫病の根絶のため、ミヤイリガイの生息環境を改変し、本種は日本各地でほとんど絶滅に近

<sup>1</sup> 千葉県立中央博物館 〒260-8682 千葉市中央区青葉町 955-2  
Natural History Museum and Institute, Chiba, Aoba-cho 955-2, Chuo-ku, Chiba, 260-8682 Japan  
E-mail: kurozumi@chiba-muse.or.jp

<sup>2</sup> 鳥取県立博物館 〒680-0011 鳥取市東町 2-124  
Tottori Prefectural Museum, Higashi-machi 2-124, Tottori, 680-0011 Japan

\* E-mail: ichisawak@pref.tottori.jp

[受領 Received 1 December 2010 / 受理 Accepted 26 January 2011]

い状況にある。本コレクションには、本種を精力的に研究された岡部浩洋氏から分与された貴重なものが含まれていた。

クリイロキセルモドキ *Mirus andersonianus* (MÖLENDORFF) [34] (図3)

主に本州のブナ林域に分布する種であり、従来は北海道西部以南から知られていたが、石坂氏の調査で道東の知床半島にまで分布が拡大した(湊・石坂, 1989)。この報告標本もコレクション中に存在していた。

モリヤギセル *Vastina vasta moriyai* (KURODA & TAKI) [69] (図4)

九州に広く分布し、比較的高密度に生息するオキギセルの中国・四国地方に分布する亜種であり(湊, 1988)、中国地方では分断された地点からのみ低密度で確認されている。本コレクションには、島根県松江市島根町加賀字別所御手洗滝の2回の調査による2個体が含まれていた。やはり、この産地においても生息個体数は少ないものと思われる。

ヘソアキコベソマイマイ *Satsuma myomphala euomphala* (PILSBRY & HIRASE) [100] とサンインコベソマイマイ *Satsuma omphalodes* (PILSBRY) [101] (図6, 7)

サンインコベソマイマイは、西日本に広く分布するコベソマイマイに類似するものの、臍孔が開くことで容易に識別できる別種であり、和名のごとく中国地方日本海側に分布する。ヘソアキコベソマイマイは、隠岐諸島から記載され、その後、島根半島西部でも確認されている。今回の石坂コレクション中には、美保関や米子など、従来知られていた分布域より東で本種が確認された。同時に、米子では、サンインコベソマイマイとヘソアキコベソマイマイが得られており、両種は同所的か、側所的に分布することも明らかにされた。より詳細な議論は、リスト中の備考に示した。

マヤサンオトメマイマイ類似種 *Trishoplita* sp. cf. *T. mayasana* AZUMA [123] (図8)

鳥取市摩尼山から得られた小形のオトメマイマイ型の種で、殻口部のみではあったが、殻表に鱗片状殻皮を有していた。殻表に鱗片状殻皮を持つ種として、マヤサンオトメマイマイ等が知られており、これらに類似するものと考えられる。詳細は、備考で示したい。

クロオトメマイマイ類似種 *Trishoplita* sp. cf. *T. commoda fusca* GUDE [124] (図9)

美保関から得られたもので、殻形態からはクロオトメマイマイに類似しているが、殻底に螺肋が認められず、幼貝では剥離しやすい鱗片状殻皮を有する種であった。この種についても、備考で述べたい。

スペインのマジョルカコマイマイ *Theba pisana* (MÜLER) [160] とサラセンマイマイ類 *Otala* spp. [164-165] (図10-12)

イタリアを中心とする地中海沿岸地方に生息する陸産貝類は、様々な農作物に伴って日本の植物検疫で確認されることも多い(例えば黒住, 2004)。しかし、その生息環境や密度に関する情報は日本では極めて限られており、今回のコレクション中には、自らがホテルの庭で採集されたものやマーケットで購入された種が含まれており、スペインでの人家周辺での陸産貝類の生息状況を示すものとして貴重である。

■石坂貝類コレクション目録

リストには、通し番号、和名、学名、【県名(国外のものは国名)】、市町村名もしくは山岳等の地名、(個体数、採集日、採集者)、[鳥取県立博物館での登録番号(ただし、冒頭の“TRPM-”を省略してある)]を示した。なお採集者が石坂氏本人である場合は、これを省略した。分類学的に特筆すべきものがある種については、備考としてコメントを付した。備考中で[CBM-ZM]とあるのは千葉県立中央博物館の収蔵標本であることを示している。

なお、和名の使用については黒田(1963)に準拠した。採集地の地名は、採集当時のものではなく、市町村合併等を反映した現在の名称に変更してある。ただし、必要と思われる場合は、カッコ書きで旧市町村名を記した。

軟体動物門 Mollusca

腹足綱 Gastropoda

アマオブネ目 Neritopsina

I. ゴマオカタニシ科 Hydrocenidae

1. ゴマオカタニシ *Georissa japonica* PILSBRY

【岡山県】新見市井倉洞 (3exs., 14.X.1973)[AMo-0000001].

II. ヤマキサゴ科 Helicinidae

2. ハコダテヤマキサゴ *Hemipoma hakodadiense* (HARTMANN)

【北海道】札幌市南区定山溪豊平峽 (5exs., ?.VII.1984)[AMo-0000002].

3. ヤマキサゴ *Waldemaria japonica* (A. ADAMS)

【三重県】いなべ市藤原岳 (6exs., 採集日不明)[AMo-0000010].  
 【滋賀県】彦根市河内風穴 (1ex., 採集日不明, 谷岡 浩)[AMo-0000011]. 米原市伊吹山頂 (4exs., 19.XI.1972)[AMo-0000012].  
 【京都府】京都市左京区鞍馬山 (村はずれ) (4exs., 採集日不明)[AMo-0000013]. 【兵庫県】淡路島伊勢の森 (6exs., 採集日不明)[AMo-0000006]. 【鳥取県】鳥取市国府町 (1ex., 26.VIII.1973)[AMo-0000005]. 鳥取市国府町雨滝 (8exs., 30.IX.1973)[AMo-0000004]. 米子市米子城跡 (1ex., 9.IX.1973)[AMo-0000003]. 【広島県】庄原市帝釈峽 (1ex., 17.XI.1973)[AMo-0000007]. 庄原市帝釈峽 (1ex., 17.XI.1973)[AMo-0000008]. 【福岡県】嘉麻市古処山 (3exs., 8.IX.1973)[AMo-0000009].

4. ヤマキサゴ (エチゴヤマキサゴ型) *Waldemaria japonica* (A. ADAMS) (*echigoensis* (PILSBRY) type)

【新潟県】妙高市妙高高原苗名滝 (2exs., ? 夏 .1971)[AMo-0000014].

備考：本種は山形県酒田市飛島をタイプ産地とし、この島の個体群は殻径 7.5mm 程度と極めて小形の島嶼型となっている。そのため、主に本州に分布する群をモミジヤマキサゴ、四国に分布し、殻皮に光沢を有する群をヌリツヤマキサゴ等として亜種等に区別することも行われている (例えば東, 1995; 黒田, 1963)。しかし、今回、殻サイズ・殻表の状態・外唇の形状・内唇滑層の状態と広がり方・フタの顆粒や付着痕の形状等の形質について、本コレクションを含む各地の標本について検討したが、安定した識別形質を見つけ出すことはできなかった。そのため、湊 (1988) の見解のように、亜種区分もできないと考える。

ただ、東北地方から新潟県の主に日本海側に分布するヤマキサゴでは、殻表の成長肋が粗く、明瞭であり、ウゼンヤマキサゴ *W. japonica uzenensis* Pilsbry, 1901 として識別されてきた。これに関しては、一箇所の個体群内での変異はほとんど見られず、殻表が平滑な群と分布域が分離していないようなので、現時点では取りあえずヤマキサゴの型とみなす。

ウゼンヤマキサゴ型の分布域西端のより成長肋の粗い個体群はエチゴヤマキサゴ *W. japonica echigoensis* Pilsbry, 1903 とされ (東, 1995; 黒田, 1963), 別種との見解もあるが (安藤・波部, 1983), 報告者はやはりヤマキサゴ *Waldemaria japonica* に含まれるものと考え、エチゴヤマキサゴ型として取り扱った。

また、滋賀県多賀町の石灰岩地である河内風穴では、個体群全体で外唇が肥厚し、二重になる「異常型」が認められ、類似したタイプは岩手県下閉伊郡釜津田石灰岩地でも知られている (鹿取・波部, 1990)。後者に近い岩手県気仙郡住田長川口の標本でも、外唇が二重

になるものが含まれていた (CBM-ZM 111196)。このように、一部の石灰岩地域等では、比較的安定した殻形態を有する群が認められている。上記の亜種の問題を含め、近い将来には、DNA 等の解析により、様々な群の系統/分類が明らかになる。

## 原始紐舌目 Architaenioglossa

## III. ヤマタニシ科 Cyclophoridae

5. ヤマタニシ *Cyclophorus herklotsi* MARTENS

【鳥取県】米子市米子城跡 (1ex., 採集日不明)[AMo-0000015].  
 【島根県】松江市美保関町 (1ex., 1.IX.1974)[AMo-0000020]. 松江市美保関町 (1ex., 1.IX.1974)[AMo-0000021]. 【岡山県】真庭市神庭の滝 (3exs., 14.X.1973)[AMo-0000017]. 津山市津山城跡 (1ex., 10.X.1973)[AMo-0000019]. 津山市津山城跡 (6exs., 23.IX.1974)[AMo-0000016]. 【高知県】香美市龍河洞 (11exs., 22.XI.1974)[AMo-0000024]. 【鹿児島県】日置市吹上町千本楠 (3exs., 23.VIII.1969)[AMo-0000023]. 日置市吹上町千本楠 (4exs., 採集日不明)[AMo-0000022].

6. アツブタガイ *Cyclotus (Procyclus) campanulatus* MARTENS

【兵庫県】粟鹿神社 (1ex., 16.IX.1974)[AMo-0000030]. 【岡山県】新見市井倉洞 (6exs., 14.X.1973)[AMo-0000028]. 新見市石蟹 (7exs., 14.X.1973)[AMo-0000027]. 新見市満奇洞 (1ex., 23.IX.1974)[AMo-0000026]. 新見市満奇洞 (4exs., 23.IX.1974)[AMo-0000029]. 新見市 (1ex., 14.X.1973)[AMo-0000025]. 【鹿児島県】日置市吹上町千本楠 (2exs., 23.VIII.1969)[AMo-0000031].

7. ヤマクルマ *Spirostoma japonicum* (A. ADAMS)

【岡山県】新見市石蟹 (6exs., 14.X.1973)[AMo-0000032]. 【高知県】香美市龍河洞 (3exs., 22.XI.1974)[AMo-0000035]. 土佐清水市足摺岬 (4exs., 採集日不明)[AMo-0000036]. 【鹿児島県】日置市吹上町千本楠 (3exs., 23.VIII.1969)[AMo-0000033]. 日置市吹上町千本楠 (7exs., 23.VIII.1969)[AMo-0000034].

## IV. ムシオイガイ科 Alycaeidae

8. ミヤコムシオイ *Chamalycaeus hirasei* PILSBRY

【島根県】松江市城山 (4exs., 5.I.1970, 中島良典)[AMo-0000037].  
 備考：本標本は、波部忠重博士の同定を受け (1977.3.4 付), ミヤコムシオイとされている。本種は、ムシオイガイと同様に、殻高が高く、殻口は丸く、時に板状に突出する二重縁となるが、ムシオイガイとは次体層の肋が密なことによって識別できる。清末ら (1976) も鳥取県から本種を報告している。

9. ムシオイガイ属の一種 sp. 1 *Chamalycaeus* sp. 1

【群馬県】沼田市利根町根利 (8exs., 13.V.1975, 高橋 茂)[AMo-0000042].

備考：この産地の標本を高橋（1984）はハリマムシオイガイ（ムシオイガイ）*C. harimensis* (Pilsbry, 1900) として報告しているが、大原・大谷（2008）により図示された *C. harimensis* のタイプ標本と比較すると、この根利産の種とは別種であると考えられる。関東地方のムシオイガイ類は通常、ムシオイガイに同定されているが、高橋（1990）は群馬県から種名未決定の他の一種を報告し、同県には2種が分布することがわかっている。今後、タイプ標本の検討等を行い、種小名と和名の確定が必要であろう。なお、狩野・後藤（1996）は神奈川県のみシオイガイ *C. nipponensis* (Reinhardt, 1877) の検討を行い、*C. nipponensis* は *C. japonicus* (Martens, 1865) のシノニムの可能性もあるとしている。

#### 10. ムシオイガイ属の一種 sp. 2 *Chamalycaeus* sp. 2

【島根県】松江市美保関町諸喰 (1ex., 19.I.1977, 中島良典) [AMo-0000040]. 出雲市大社町鷺浦 (3exs., 21.XI.1976, 中島良典) [AMo-0000039]. 隠岐島前：西ノ島町浦郷字由良 (3exs., 3.X.1976, 中島良典) [AMo-0000038]. 【福岡県】北九州市小倉平尾台 (3exs., 4.IX.1973) [AMo-0000041]. 【長崎県】平戸市古江 (2exs., 28.IV.1974) [AMo-0000043].

備考：本種は、東（1995）によってピルスブリムシオイ (Pl. 4, fig. 36.) として図示されており、従来、ピルスブリムシオイ *C. pilsbryi* (Kobelt, 1902) やハリマムシオイ *C. harimensis* (Pilsbry 1900) として報告されている種やその一部である（東, 1995; 堀川, 1964; 高橋・岡本, 1969; 矢野, 2002 等）。報告者は、ピルスブリムシオイは小形・腰高・薄質・薄い一重の殻口縁を有するという特徴を持つ種であり、前述のピルスブリムシオイとされてきた種とは別種であると考えている（黒住, 1997）。この sp. 2 とした種は、これまで日本から記載された学名には合致するものがなく、報告者は未記載種と考えている。今後の詳細な検討が必要である。これらのうち、美保関町諸喰産・大社町鷺浦産・西ノ島町浦郷字由良産の個体は当時の波部忠重博士の同定として、ムシオイガイ（1977.3.4 付）となっており、このグループの同定の困難さが伺える。

#### V. アズキガイ科 Pupinidae

##### 11. アズキガイ *Pupinella* (*Pupinopsis*) *rufa* (SOWERBY)

【東京都】目黒区目黒不動 (2exs., 9.X.1977) [AMo-0000049]. 【熊本県】菊池市菊池溪谷 (5exs., 25.VIII.1974) [AMo-0000047]. 菊池市菊池溪谷 (3exs., 採集日不明) [AMo-0000048]. 【鹿児島県】日置市吹上町千本楠 (1ex., 23.VIII.1969) [AMo-0000044]. 日置市吹上町千本楠 (8exs., 23.VIII.1969) [AMo-0000045]. 日置市吹上町千本楠 (55exs., 23.VIII.1969) [AMo-0000046].

#### VI. ゴマガイ科 Diplommatinidae

##### 12. キュウシュウゴマガイ *Diplommatina* (*Sinica*) *tanegashimae kyushuensis* PILSBRY & HIRASE

【岡山県】新見市井倉洞 (1ex., 14.X.1973) [AMo-0000050]. 真庭市神庭の滝 (1ex., 14.X.1973) [AMo-0000051].

##### 13. ウゼンゴマガイ *Diplommatina* (*Sinica*) *uzenensis* PILSBRY

【新潟県】妙高市妙高高原苗名滝 (2exs., ?. 夏 .1971) [AMo-0000052].

備考：多田（2008）は、京都市周辺のゴマガイ類の検討を行い、類似した殻形態を有する3種をゴマガイ (*D. cassa* Pilsbry, 1901 = *D. uzenensis* Pilsbry, 1900), *D. cassa* 類似種, キュウシュウゴマガイ (*D. tanegashimae kyushuensis* Pilsbry & Hirase, 1904) に識別・報告した。報告者も、これら3種をそれぞれ別種とする見解には同意するが、学名と和名の組み合わせに関しては、異なった考えを持つ。それは、*D. cassa* のタイプ標本に2種が含まれている可能性が高いためである。*D. cassa* のタイプ産地は Kodakari, Hida and Kyoto であり (Pilsbry, 1901b), 多田（2008）の示した分布域からも Hida (岐阜県) は *D. uzenensis* で, Kyoto (京都府) は *D. t. kyushuensis* と同種である可能性が高い。例えば、タイプ標本と同一ロットと考えられる、京大総合博物館所蔵の平瀬介館の *D. cassa* 標本 (No. 257) は、京都産／ゴマガイの和名で、多田（2008）のキュウシュウゴマガイが図示されている ([http://www.museum.kyoto-u.ac.jp/collection/Shell/index\\_Shell.htm](http://www.museum.kyoto-u.ac.jp/collection/Shell/index_Shell.htm))。

つまり *D. cassa* のタイプ標本（シンタイプ）を検討して、1) レクトタイプに飛騨産を指定した場合、*D. cassa* は *D. uzenensis* のシノニムとなる。和名のウゼンゴマガイとゴマガイは同一のものを指すことになるが、この場合は和名をゴマガイに統一すると最も混乱が少ないということになる。この見解は、波部(1961)の組み合わせでも用いられている。

一方、2) レクトタイプに京都産の *D. t. kyushuensis* 型を指定した場合、*D. t. kyushuensis* は *D. cassa* のシノニムとなり、キュウシュウゴマガイの和名はなくなり、キュウシュウゴマガイの名義タイプ亜種のタネガシマゴマガイ *D. t. tanegashimae* も取りあえず、*D. cassa* の亜種という取り扱いになろう。

今後のタイプ標本の検討とレクトタイプ指定が望まれる。報告者の一人、黒住としては、平瀬介館以来、日本の貝類学の基礎を築いた黒田徳米博士のまとめ（黒田, 1956, 1963）や、ほぼその考えを踏襲した東（1995）の図鑑では2)の考えをとっているようであり、

それに従うと混乱が少ないと考えている。

ただし本目録では、レクトタイプが指定されるまでの措置として、ウゼンゴマガイ *Diplommatina (Sinica) uzenensis* Pilsbry およびキュウシュウゴマガイ *Diplommatina (Sinica) tanegashimae kyushuensis* Pilsbry & Hirase の名前を採用する。なお本目録におけるキュウシュウゴマガイは、多田 (2008) に従った同定結果である。

#### VII. タニシ科 Viviparidae

##### 14. マルタニシ *Chipangopaludina chinensis* (GRAY in GRIFFITH & PIDGEON)

【中華人民共和国】広東省雷州半島海陵島 (1ex., 採集日不明; 入手: 1. II. 1989, 福元) [AMo-0000053].

備考: 本種の中国に分布する群は、日本のものと亜種として区別されることが多く、その場合には大山 (1944) 等で用いられたカラタニシという和名を使用することになろう。学名は、*Chipangopaludina chinensis chinensis* (Gray in Griffith & Pidgeon, 1834) である。ただ、黒住・岡本 (1996) は、日本のマルタニシ自体を中国からの史前帰化と考えているので、その場合には、両者を亜種として識別する必要がなくなり、ここに示したような和名と学名の組み合わせとなる。

##### 15. ヒメタニシ *Sinotaia quadrata* (BENSON)

【埼玉県】平林寺 (1ex., 12.II.1979) [AMo-0000054].

備考: 日本産のヒメタニシは *S. q. histricus* (Gould, 1859) と中国のものと同種レベルで区別されている (例えば黒田, 1963)。しかし、この種もマルタニシと同様に、松岡 (2001) や黒住 (2001) は、かなり新しい時代の移入種ではないかと考えているが、まだ詳細な検討は行われていない。そのため、日本のものが *S. quadrata* のタイプ産地である中国のものと同種レベルの識別が不要と考えた場合には、ヒメタニシ *S. quadrata* (Benson, 1842) となる。この組み合わせは、大山 (1944) も用いているが、中国のものを亜種と考えた場合には、*S. q. quadrata* シナヒメタニシとしている。

#### 吸腔目 Sorbeoconcha

#### VIII. カワグチツボ科 Iravadiidae

##### 16. カワグチツボ *Iravadia (Fluviocingula) elegantula* (A. ADAMS)

【福岡県】大牟田市 (有明海) (9exs., 採集日不明) [AMo-0000055].

#### IX. イツマデガイ科 Pomatiopsidae

##### 17. ヤママメタニシ *Blanfordia integra* PILSBRY

【新潟県】糸魚川市 (旧青海町) 親不知 (2exs., 4.VIII.1980) [AMo-0000057]. 【島根県】出雲市別所町魚竿淵万産 (1ex., 11.VII.1976) [AMo-0000056].

##### 18. カタヤマガイ (ミヤイリガイ) *Oncomelania hupensis nosophora* (ROBSON) (図 1)

【福岡県】久留米市長門石 (4exs., 採集日不明, 岡部浩洋) [AMo-0000058].

#### X. カワザンショウガイ科 Assimineidae

##### 19. ヒラドカワザンショウ *Assimineea hiradoensis* HABE

【長崎県】平戸島古江湾 (3exs., 採集日不明) [AMo-0000059].

##### 20. アズキカワザンショウ *Pseudomphala latericea miyazakii* (HABE)

【福岡県】柳川市塩塚川 (7exs., 15.X.1973) [AMo-0000060].

##### 21. ヘソカドガイ *Paludinellassimineea japonica* (PILSBRY)

【和歌山県】串本町橋抗岩 (8exs., 採集日不明) [AMo-0000061].

##### 22. ヘソカドガイ類似種 *Paludinellassimineea* sp. cf. *P. japonica* (PILSBRY)

【鳥取県】岩美町竜神洞 (5exs., 6.X.1974, 谷岡 浩) [AMo-0000062].

備考: 竜神洞からの本類の記録として、ヘソカドガイが報告されている (清末ら, 1976)。今回検討できた同地の標本は、ヘソカドガイより明らかに臍孔が狭いもので、Fukuda and Mitoki (1995) の見解ではオオウスイロヘソカドガイに同定されるものであった。ただ竜神洞産は、種子島をタイプ産地とするオオウスイロヘソカドガイ (本コレクションでも和歌山県串本産の標



図 1. カタヤマガイ *Oncomelania hupensis nosophora* (ROBSON), 福岡県久留米市長門石 [AMo-0000058].

本が得られている)より小形・濃色であった。報告者は、竜神洞産をオオウスイロヘソカドガイとは別種の可能性が高いと考え、別にリストアップした。現在、本属の分類学的検討が精力的に進められているので、近いうちに今回の取り扱いを含めて、その全容が明らかにされるものと思われる。

23. オオウスイロヘソカドガイ *Paludinellassiminea tanegashimae* (PILSBRY)  
【和歌山県】串本町橋抗岩 (11exs., 採集日不明)[AMo-0000063].

#### XI. クビキレガイ科 Truncatellidae

24. アマミクビキレガイ *Truncatella amamiensis*  
KURODA & HABE in HABE  
【沖縄県】宮古島狩俣 (3exs., 採集日不明)[AMo-0000064].

備考：本種は、種レベルでクビキレガイ *T. guerinii* A. & J.B. Villa, 1841 と異なるとして記載されたが(波部, 1961), 近年の研究ではクビキレガイのシノニムとされている(例えば安藤・波部, 1981; 東, 1995; 湊, 1988 等)。近年の奄美諸島喜界島の調査で、報告者はクビキレガイ属の2種が同所的に分布しながら、僅かに生息“潮位”(本属の種は主に飛沫帯に分布するので、厳密な意味での潮位ではない)を分離させている例を観察することができた(黒住, 未発表)。両者は、アマミクビキレの原記載時に識別形質とされた肋の密度が異なっていた。この肋の密度は、アマミクビキレとクビキレガイがシノニムとされたように、極めて安定しているものではない可能性が高く、“形質置換”のような現象が生じているのかもしれない。本コレクションの個体は、アマミクビキレの原記載に一致するので、この名でリストアップした。

#### XII. ミズゴマツボ科 Stenothyridae

25. オンセンゴマツボ *Stenothyra thermaecola* KURODA  
【大分県】由布市湯布院岳本温泉 (2exs., 30.XII.1982, 今泉孝教)[AMo-0000065].

#### 有肺目 Pulmonata

#### XIII. オカミミガイ科 Ellobiidae

26. ナラビオカミミガイ *Auriculastra duplicata* (PFEIFFER)  
【福岡県】柳川市塩塚川 (5exs., 2.VI.1974)[AMo-0000066]. 柳川市塩塚川河口 (2exs., 2.VI.1974)[AMo-0000067].

27. ウラシマミミガイ *Cassidula mustelina* (DESHAYES)  
【フィリピン】セブ島 (3exs., 採集日不明)[AMo-0000068].

28. コウモリミミガイ *Cassidula nucleus* (GMELIN)  
【フィリピン】セブ島 (10exs., 採集日不明)[AMo-0000069].

29. ユダノミミガイ *Ellobium aurisjudae* (LINNAEUS)  
【フィリピン】セブ島 (2exs., 採集日不明)[AMo-0000070].

30. ハマシイノミガイ *Melampus (Melampus) nuxeastaneus*  
KURODA  
【和歌山県】串本町橋抗岩弁天島 (3exs., 採集日不明)[AMo-0000071].

31. クロヒラシイノミ *Pythia (Pythia) pachyodon*  
PILSBRY & HIRASE  
【鹿児島県】奄美大島宇検村宇検 (1ex., 採集日不明)[AMo-0000072].

32. カドバリヒラシイノミガイ *Pythia (Trigonopythia) trigona* (TROSCHERL)  
【フィリピン】セブ島 (5exs., ??.1973)[AMo-0000073].

備考：本種の属名は、波部・小菅(1966)では *Trigonopythia* とされるが、Martins (1996) では *Trigonopythia* を *Pythia* の亜属としている。ここでは、後者の取り扱いに従っておきたい。詳細な文献上の検討を行えなかったが、千葉県立中央博物館の標本 (CBM-ZM 111763) では、本種は *Pythia plicata* (Férussac, 1821) と同定されており、今後の詳細な検討が望まれる。

#### XIV. モノアラガイ科 Lymnaeidae

33. ヨーロッパモノアラガイ *Lymnaea (Lymnaea) stagnalis* (LINNAEUS) (図2)  
【フランス】ヴェルサイユ宮殿 (2exs., 17.X.1975, 志村辰



図2. ヨーロッパモノアラガイ *Lymnaea (Lymnaea) stagnalis* (L.), フランス・ヴェルサイユ宮殿 [AMo-0000074].

夫)[AMo-0000074].

備考：近年、淡水産モノアラガイ類では、国外からの移入種が日本各地に定着していることが報告されてきている（例えば黒住，2007；増田，1995；増田・内山，2004；上島ら，2000）。しかしながら、その分類学的研究は余り進んでいない。一方、移入される可能性が高く、比較的種数も少ない西ヨーロッパ産のモノアラガイ類に関して、和名に混乱が見られる。石坂コレクション中にも、1種が含まれていた。そのため、ここでは、簡単に西ヨーロッパに普通に生息しているモノアラガイ類の和名の安定のために、コメントしておきたい。

1) *Lymnaea (Lymnaea) stagnalis* (Linnaeus, 1758) ヨーロッパモノアラガイ（鹿間，1964 新称）：この種に対して、鹿間（1964）はスウェーデン産の標本を図示し、ヨーロッパモノアラガイの和名を与えた。波部（1973）はオオモノアラガイの和名で、この種がヨーロッパからシベリアに分布することを示したが、図版ではこの学名の種をタケノコモモノアラガイとしている。

一方で、波部（1962）は和名を与えていないものの、「日本産有肺淡水貝目録」に、*L. (L.) stagnalis* を掲載している。また、オオモノアラガイの和名は、波部（1973）より先に鹿間（1964）によりアメリカ産の *L. megasoma* (Say, 1824) に与えられた。

このように和名と学名が混乱している状況なので、本種に対して最も早く標本を図示されたヨーロッパモノアラガイを用いるのが良いと考える。なお、*L. (L.) stagnalis* にはタケノコモモノアラガイ（通称）の和名が用いられることもあるが、ここではタケノコモモノアラガイはヨーロッパモノアラガイの別名としておきたい。

2) *Lymnaea (Stagnicola) palustris* (Müller, 1774) オウシュウコシダカモノアラガイ（新称）：この学名の種に対して、瀧（1940）はトウガタモノアラガイの和名を用い、板垣・今井（1960）はタケノコモモノアラガイの和名で北海道から記録した（分布記録のプロットが極めて小さく判然としないが、渡島半島の1地点からのみ得られたようである）。

トウガタモノアラガイの和名については、鹿間（1964）がカナダ産の *L. (S.) exilis* [図版では *etilis* となっている] の標本を図示した上で“新称”として用いている。

タケノコモモノアラガイの和名については、波部（1962）が「日本産有肺淡水貝目録」の中で、*L. (S.) palustris* に対する和名としてリストしているが、

前述したように、1973年には *L. stagnalis* をタケノコモモノアラガイとして図示している。またそれらに先んじて、瀧（1940）によって、文献からの引用として、東アジア北部の *L. terebra* Westerlund, 1897 に対してタケノコモモノアラガイの和名が与えられている。

このように、*L. (S.) palustris* の和名は混乱しているので、ここでオウシュウコシダカモノアラガイ（新称）として安定させたい。トウガタモノアラガイは標本が図示された *L. (S.) exilis* Lea, 1837 に用いることとし、タケノコモモノアラガイに関しては前述のとおりとする。

なお、日本産の“タケノコモモノアラガイ”に関しては、板垣・今井（1960）や波部（1962, 1973）の報告があるものの、黒田（1963）や最近の波部（1990）のリストには挙げられておらず、現時点ではその詳細は不明であるが、瀧（1940）が *L. terebra* とした種の可能性が高いように思われる。

3) *Lymnaea ovata* (Draparnaud, 1805) カシノミモノアラガイ（瀧，1940 新称）：比較的小形で、良く膨れた本種には、カシノミモノアラガイの和名の他、鹿間（1964）によるバルチックモノアラガイ（p.169 文章中の新称）やクラフチュクモノアラガイ（通称）の名があるものの、流布しておらず、最も古いカシノミモノアラガイを用いたい。この種は、ヨーロッパから中国北部まで分布するとされる（瀧，1940）。

4) *Lymnaea peregra* (Müller, 1774) カタクチモノアラガイ（瀧，1940 新称）：カシノミモノアラガイに類似するが、細長い。ソトモノアラガイ（通称；浅見，1994も参照）の名もあるが、この和名はそれ程知られていないので、カタクチモノアラガイを用いるよう推奨したい。

#### XV. キセルモドキ科 Enidae

34. クリイロキセルモドキ *Mirus andersonianus* (MÖLLENDORFF) (図3)

【北海道】斜里町知床五湖（第三湖）(2exs., 17.VII.1984)[AMo-0000077]. 【鳥取県】鳥取市国府町雨滝 (1ex., 30.IX.1973)[AMo-0000075]. 三朝町三徳山 (1ex., 29.VII.1974)[AMo-0000076].

35. キセルモドキ *Mirus reinianus* (KOBELT)

【新潟県】妙高市妙高高原苗名滝 (1ex., ? 夏.1971)[AMo-0000084]. 【兵庫県】立坑 (2exs., 16.IX.1974)[AMo-0000082]. 【岡山県】井原市芳井町日南山骨峽 (1ex., 29.IV.1972)[AMo-0000420]. 新見市井倉洞 (1ex., 14.X.1973)[AMo-0000081]. 新見市石蟹 (3exs., 14.X.1973)[AMo-0000078]. 新見市石蟹 (1ex.,

14.X.1973)[AMo-0000079]. 新見市石蟹 (21exs., 14.X.1973)[AMo-0000080]. 真庭市神庭の滝 (2exs., 14.X.1973)[AMo-0000463]. 【広島県】庄原市帝釈峽 (2exs., 17.XI.1973)[AMo-0000083]. 【高知県】香美市龍河洞 (2exs., 22.XI.1974)[AMo-0000085].

36. フトキセルモドキ *Mirus japonica* (MÖLLENDORFF)  
【滋賀県】米原市伊吹山 (1ex., 19.XI.1972)[AMo-0000089]. 【鳥取県】鳥取市国府町雨滝 (1ex., 26.VIII.1973)[AMo-0000086]. 【岡山県】真庭市神庭の滝 (1ex., 14.X.1973)[AMo-0000087]. 【広島県】庄原市帝釈峽 (1ex., 17.XI.1973)[AMo-0000088].

37. ヤセキセルモドキ *Mirus gracilispira* KAJIYAMA & HABE in HABE  
【岡山県】井原市芳井町日南山骨峽 (1ex., 29.IV.1972)[AMo-0000547]. 高梁市成羽町 (6exs., 29.IV.1972)[AMo-0000090].

38. キカイキセルモドキ *Yakuena reticulata* (REEVE)  
【鹿児島県】沖永良部島田皆岬 (3exs., 31.VII.1973)[AMo-0000091].

#### XVI. キセルガイ科 Clausiliidae

備考：近年、日本産のキセルガイ科は湊 (1994) によりまとめられ、Nordsieck (1998) は、それに対して大幅な属の取り扱ひの異なる見解を示している。ここでは、基本的に湊 (1994) の見解に従って示した。なお、Nordsieck (1998) の紹介と重要な追記が湊 (1999) によって報告されている。

39. ヒカリギセル *Zaptychopsis buschi* (KÜSTER)  
【神奈川県】横須賀市衣笠駅付近 (5exs., 24.XI.1975, 高橋 茂) [AMo-0000092].



図3. クライロキセルモドキ *Mirus andersonianus* (MÖLLENDORFF), 北海道斜里町知床五湖 [AMo-0000077].

40. チビギセル *Placeophaedusa expansilabris* (BÖTTGER)  
【鳥取県】鳥取市松上神社 (2exs., 8.XII.1974)[AMo-0000093].

41. スグヒダギセル *Hemizaptyx stimpsoni subgibera* (BÖTTGER)  
【兵庫県】宍粟市一宮町 (1ex., 15.IX.1974)[AMo-0000099]. 【鳥取県】三朝町三徳山 (2exs., 29.VII.1974)[AMo-0000094]. 三朝町三徳山 (1ex., 29.VII.1974)[AMo-0000095]. 日野町根雨神社 (1ex., 21.VI.1973)[AMo-0000096]. 日野町根雨神社 (4exs., 21.VI.1973)[AMo-0000097]. 日野町根雨神社 (2exs., 14.X.1973)[AMo-0000098]. 【福岡県】福岡市玄海島 (2exs., 26.VI.1974)[AMo-0000100]. 久留米市北野 (3exs., 採集日不明)[AMo-0000101]. 山寝村宝満完 (2exs., 11.VI.1974)[AMo-0000102]. 【宮崎県】延岡市頼口 (3exs., 8.IX.1973)[AMo-0000103]. 【鹿児島県】日置市吹上町千本桶 (2exs., 23.VIII.1969)[AMo-0000104].

42. ヒラドギセル *Hemizaptyx subignobilis* (PILSBRY)  
【長崎県】平戸市平戸城跡 (5exs., 3.VII.1973)[AMo-0000105]. 平戸市古江 (4exs., 28.III.1974)[AMo-0000106].

43. ハチジョウノミギセル *Metazaptyx hachijoensis* (PILSBRY)  
【東京都】三宅島 (4exs., ?.VIII.1973)[AMo-0000108]. 三宅島三池 (5exs., 2.IV.1975, 高橋 茂) [AMo-0000107].

44. ハゲギセル *Pinguiphaedusa attrita attrita* (BÖTTGER)  
【兵庫県】神戸市兵庫区有馬炭酸泉附近 (2exs., 採集日不明) [AMo-0000109].

45. コハゲギセル *Pinguiphaedusa attrita infausta* (PILSBRY)  
【和歌山県】串本町田原秋葉神社 (3exs., 採集日不明) [AMo-0000110].

備考：本標本は、*P. attrita keizii* (Habe, 1943) カンダギセルとして識別されたこともある群に属する。

46. ツムガタモドキギセル *Pinguiphaedusa pinguis platyauchen* (MARTENS)  
【青森県】奥入瀬銚子大滝 (2exs., 24.VII.1985)[AMo-0000111]. 【群馬県】水上町湯ノ小屋温泉 (3exs., 1.VII.1975, 高橋 茂) [AMo-0000112].

備考：本亜種は、ツムガタギセルと同一亜種とされることもあるが、報告者はより長い殻形態を持ち、いわゆる東日本のブナ林域に分布する群として、別亜種とする。

47. ヒルクチギセル *Luchuphaedusa nesiothauma* (PILSBRY)

- 【鹿児島県】奄美大島宇検村冠岳 (2exs., 15.VIII.1969, 高橋五郎) [AMo-0000113].
48. オオシマギセル *Luchuphaedusa oshimae* (PILSBRY)  
【鹿児島県】奄美大島住用村 (2exs., 採集日不明) [AMo-0000114].
49. ツヤギセル *Luchuphaedusa praeclara praeclara* (GOULD)  
【沖縄県】那覇市首里城跡 (6exs., ?.VI.1972) [AMo-0000115].  
備考：本種をタイプ種とする亜属の *Nesiophaedusa* が用いられることも多いが、遺伝学的な検討では、この種は *Luchuphaedusa* の種の中に含まれるので、*Nesiophaedusa* はシノニムと考えられている (Miyazaki *et al.*, 1988)。ここでは、この見解に従った。
50. ナタマメギセル *Luchuphaedusa ophidoon* (PILSBRY)  
【鹿児島県】下甕島青瀬 (1ex., 採集日不明) [AMo-0000116].  
備考：下甕島に分布する本種には、遺伝的に異なる複数種の含まれていることが明らかになっているが (上島, 1995)、現在まで、それぞれの種に学名が与えられていないので、ここでは広義の種としてリストした。
51. ミカドギセル *Tyrannophaedusa (Tyrannophaedusa) mikado* (PILSBRY)  
【岐阜県】大垣市赤坂金生山 (7exs., 採集日不明) [AMo-0000117].
52. ウスベニギセル *Tyrannophaedusa (Tyrannophaedusa) aurantiaca* (BÖTTGER)  
【和歌山県】串本町橋抗岩 (3exs., 採集日不明) [AMo-0000118].
53. ジェイギセル (ゼイギセル) *Tyrannophaedusa (Tyrannophaedusa) proba proba* (A. ADAMS)  
【和歌山県】串本町橋抗岩 (31exs., 採集日不明) [AMo-0000120].  
備考：本種の和名表記に関しては、ゼイギセル (黒田 1963) とされることも多いが、献名された人物に対する表記は「ジェイ」であることが一般的である (例えば波部, 1977b)。
54. ナラビヒダギセル *Tyrannophaedusa (Tyrannophaedusa) proba caryostoma* (MÖLLENDORFF)  
【兵庫県】淡路島賀集淳仁天皇陵 (3exs., 採集日不明) [AMo-0000119].
55. シリオレギセル *Tyrannophaedusa (Decolliphaedusa) bilabrata* (SMITH)
- 【兵庫県】西宮市 (1ex., 採集日不明) [AMo-0000129]. 【鳥取県】鳥取市摩尼山 (2exs., 24.IX.1973) [AMo-0000121]. 鳥取市松上神社 (1ex., 8.XII.1974) [AMo-0000122]. 鳥取市松上神社 (1ex., 8.XII.1974) [AMo-0000123]. 三朝町三徳山 (1ex., 29.VII.1974) [AMo-0000124]. 【岡山県】新見市井倉洞 (1ex., 14.X.1973) [AMo-0000128]. 新見市石蟹 (1ex., 14.X.1973) [AMo-0000126]. 新見市満奇洞 (2exs., 23.IX.1974) [AMo-0000125]. 真庭市神庭の滝 (3exs., 14.X.1973) [AMo-0000127].
56. デールギセル *Tyrannophaedusa (Decolliphaedusa) dalli* (PILSBRY)  
【徳島県】那賀町 (旧鷺敷町) 大龍寺山 (2exs., 15.I.1973) [AMo-0000130].
57. ホソヒメギセル *Tyrannophaedusa (Aulacophaedusa) aulacophora* (PILSBRY)  
【鳥取県】三朝町三徳山 (2exs., 29.VII.1974) [AMo-0000131]. 三朝町三徳山 (1ex., 29.VII.1974) [AMo-0000132]. 【岡山県】新見市井倉洞 (1ex., 14.X.1973) [AMo-0000133].
58. ホソヤカギセル (エンシュウギセル) *Mundiphaedusa (Mundiphaedusa) hosayaka* (PILSBRY)  
【愛知県】豊橋市嵩山 (4exs., 採集日不明) [AMo-0000134].  
備考：本種の種小名は従来、誤って *hosoyaka* とされてきたが、上記の *hosayaka* という綴りが正しく、誤った綴りに基づくホソヤカギセルの和名を主な分布地に因んでエンシュウギセルと改称するという見解が示されている (湊, 1999)。しかし、ホソヤカギセルの和名は広く用いられており、また本種の殻形は“細く”, この殻形をイメージして“ホソヤカ”ギセルと理解することも可能だと思われる。そのため、ここでは、従来どおり、ホソヤカギセルと表記した。
59. コグレギセル *Mundiphaedusa (Mundiphaedusa) opeas* (MÖLLENDORFF)  
【群馬県】利根村南郷 (3exs., 13.V.1975, 高橋 茂) [AMo-0000135].  
備考：この種は後述のヒメギセルのシノニムとされることが多かったが、黒住ら (1993) に示されている通り別種とし、学名と和名の組み合わせに関しては上島 (1987) に従う。
60. キヌハダギセル *Mundiphaedusa (Mundiphaedusa) discrepans* KURODA & HABE in AZUMA  
【新潟県】妙高市妙高高原苗名滝 (1ex., ?.夏.1971) [AMo-0000136].
61. ハブタエギセル *Mundiphaedusa (Mundiphaedusa) decussata* (MARTENS)

【茨城県】筑波山 (2exs., 21.XI.1971)[AMo-0000137].

62. チュウゼンジギセル *Mundiphaedusa (Mundiphaedusa) sericina* (MÖLLENDORFF)

【神奈川県】横須賀市観音崎 (3exs., 11.II.1974)[AMo-0000139].  
横須賀市観音崎 (2exs., 1.IV.1975, 高橋 茂)[AMo-0000138].

63. オオトノサマギセル *Mundiphaedusa (Mundiphaedusa) rex* (PILSBRY)

【埼玉県】横瀬町武甲山生川 (2exs., ?.?.1973, 高橋 茂)[AMo-0000140]. 【東京都】五日市町上養沢鏡乳洞 (1ex., 採集日不明)[AMo-0000141].

64. オクガタギセル *Mundiphaedusa (Mundiphaedusa) sp.*

【東京都】五日市町上養沢鏡乳洞 (3exs., 採集日不明)[AMo-0000142]. 【石川県】白峰村奥山六万山 (4exs., 採集日不明)[AMo-0000143].

備考：本種の種小名には *dorcas* (Pilsbry, 1902) の用いられることが多いが、黒住 (1997) は *M. dorcas* のホロタイプ (Abbott, 1989) は *M. ducalis* (Kobelt, 1876) トノサマギセルと同種であると考えているので、種小名がなくなった状況となっている。

65. カギヒダギセル *Mundiphaedusa (Mundiphaedusa) pilsbryi* (NORDSIECK)

【大阪府】千早赤阪村金剛山 (5exs., 10.VI.1972)[AMo-0000144].

備考：本種の種小名は、従来 *heteroptyx* (PILSBRY, 1902) とされてきたが、この名はホモニムとなり、新名が与えられた (Nordsieck, 1998; 湊, 1999 も参照)。

66. ヒメギセル *Mundiphaedusa "(Vitriphaedusa)" micropeas* (MÖLLENDORFF)

【長野県】下諏訪町諏訪神社春宮 (4exs., 18.VII.1977)[AMo-0000145].

備考：本種の属する *Vitriphaedusa* 亜属はコグレギセルをタイプ種とするものであるが、コグレギセルは *Mundiphaedusa* 亜属に含まれるため、前者は後者のシノニムとなる。しかしヒメギセルは *Mundiphaedusa* とは別亜属に属すると考え、暫定的にこの亜属名を使用する。

67. オオギセル *Megalophaedusa martensi* (MARTENS)

【神奈川県】箱根フジビューゴルフ場 (1ex., ? 夏 .1976)[AMo-0000151]. 【愛知県】豊橋市嵩山 (2exs., ?.VII.1973)[AMo-0000149]. 豊橋市石巻山 (1ex., 採集日不明)[AMo-0000147]. 豊橋市石巻山 (3exs., 採集日不明)[AMo-0000148]. 【和歌山県】那智勝浦町那智山 (2exs., 採集日不明)[AMo-0000150]. 【鳥取県】

鳥取市国府町雨滝 (3exs., 7.VII.1973)[AMo-0000146].

68. オキギセル *Vastina vasta vasta* (BÖTTGER)

【福岡県】前原市水無 (2exs., 8.X.1973)[AMo-0000154]. 【宮崎県】延岡市頼口 (2exs., 採集日不明)[AMo-0000155].

69. モリヤギセル *Vastina vasta moriyai* (KURODA & TAKI) (図 4)

【鳥根県】松江市島根町加賀別所御手洗滝 (1ex., 16.VI.1974)[AMo-0000152]. 松江市島根町加賀別所御手洗滝 (1ex., 15.VI.1975)[AMo-0000153].

70. イイジマギセル *Vastina iijimae* (EHRMANN)

【高知県】香美市龍河洞 (1ex., 22.XI.1974)[AMo-0000156].

71. シーボルトコギセル (シイボルトコギセル)

*Phaedusa sieboldii* (KÜSTER)

【鳥根県】松江市美保関町 (1ex., 5.X.1975)[AMo-0000157]. 【福岡県】福岡市玄海島 (3exs., 28.VIII.1974)[AMo-0000159]. 八女市人形の八幡宮 (2exs., 15.V.1969, 高橋五郎)[AMo-0000158]. 【長崎県】対馬豆酸 (6exs., 採集日不明)[AMo-0000160]. 【鹿児島県】日置市吹上町千本楠 (2exs., 23.VIII.1969)[AMo-0000161]. 日置市吹上町千本楠 (2exs., 23.VIII.1969)[AMo-0000162]. 日置市吹上町千本楠 (3exs., 23.VIII.1969)[AMo-0000163].

備考：本種の和名には、従来シイボルトコギセルという表記が用いられてきたが、通常はシーボルトと記されるので、それに従っておきたい。岡本・奥谷 (1997) でもシーボルトと表記されている。

72. オキナワギセル *Phaedusa (Phaedusa) valida valida* (KÜSTER)



図 4. モリヤギセル *Vastina vasta moriyai* (KURODA & TAKI), 鳥根県松江市島根町加賀別所御手洗滝 [AMo-0000152-3].

【沖縄県】大宜味村塩屋 (2exs., 採集日不明, 塩屋) [AMo-0000164].

73. ナミギセル *Phaedusa (Phaedusa) japonica* (CROSSE)

【東京都】千代田区皇居東御苑 (1ex., 11.II.1979)[AMo-0000194]. 目黒区目黒不動 (1ex., 9.X.1977)[AMo-0000193]. 【大阪府】茨木市安威 (2exs., 13.X.1974)[AMo-0000192]. 【兵庫県】神戸市 (1ex., 採集日不明)[AMo-0000190]. 豊岡市城崎四所神社 (2exs., 4.X.1970)[AMo-0000187]. 香美町 (旧香住町) 大乘寺 (3exs., 23.VI.1974)[AMo-0000188]. 香美町 (旧香住町) 大乘寺 (3exs., 23.VI.1974)[AMo-0000189]. 【鳥取県】鳥取市久松公園 (2exs., 18.IX.1973)[AMo-0000172]. 鳥取市久松山頂 (1ex., 26.VIII.1973)[AMo-0000171]. 鳥取市上町 (1ex., 17.III.1969)[AMo-0000167]. 鳥取市上町 (4exs., ?.V.1973)[AMo-0000165]. 鳥取市上町 (7exs., ?.V.1973)[AMo-0000166]. 鳥取市摩尼山 (1ex., 24.IX.1973)[AMo-0000169]. 鳥取市摩尼山 (3exs., 24.IX.1973)[AMo-0000170]. 鳥取市護国神社 (1ex., 17.XI.1973)[AMo-0000174]. 鳥取市松上神社 (1ex., 8.XII.1974)[AMo-0000168]. 鳥取市渡辺数馬墓 (1ex., 8.VII.1973)[AMo-0000175]. 鳥取市内 (8exs., ?.VII.1973)[AMo-0000176]. 倉吉市打吹城跡 (4exs., 16.IX.1973)[AMo-0000177]. 倉吉市打吹城跡 (5exs., 16.IX.1973)[AMo-0000178]. 【岡山県】真庭市 (旧北房町) (1ex., 23.IX.1974)[AMo-0000181]. 新見市石蟹 (3exs., 14.X.1973)[AMo-0000185]. 新見市石蟹 (2exs., 14.X.1973)[AMo-0000186]. 真庭市神庭の滝 (3exs., 14.X.1973)[AMo-0000179]. 真庭市神庭の滝 (3exs., 14.X.1973)[AMo-0000180]. 津山市津山城跡 (9exs., 10.X.1973)[AMo-0000183]. 津山市津山城跡 (4exs., 14.X.1973)[AMo-0000182]. 津山市津山城跡 (5exs., 23.IX.1974)[AMo-0000184]. 【広島県】庄原市帝釈峽 (1ex., 17.XI.1973)[AMo-0000191]. 庄原市帝釈峽 (2exs., 17.XI.1973)[AMo-0000549].

74. ナミギセル(オオナミギセル型) *Phaedusa (Phaedusa) japonica* (CROSSE) (*hilgendorfi* (MARTENS) type)

【鳥根県】松江市美保関町 (1ex., 1.IX.1974)[AMo-0000195].

備考: 変異幅の広いナミギセルのうち, 島根半島とその周辺の群は大形になることが知られており, その状況は安定しているので, 暫定的に型として示した。

75. ナミギセル(オボロナミギセル型) *Phaedusa (Phaedusa) japonica* (CROSSE) (*perobscura* (PILSBRY) type)

【福岡県】福岡市福岡城跡 (4exs., 22.VIII.1969)[AMo-0000196]. 福岡市福岡城跡 (8exs., 採集日不明)[AMo-0000197].

備考: 北部九州のナミギセルは, 時にオボロナミギセルとして識別されており, 今回も暫定的に型とした。

76. アワジウツミギセル *Phaedusa (Phaedusa) pallens* (MÖLLENDORF)

【兵庫県】姫路市姫路城 (2exs., 21.VII.1973)[AMo-0000201]. 姫路市姫路城 (1ex., 6.X.1973)[AMo-0000199]. 姫路市姫路城 (4exs., 23.III.1974)[AMo-0000200]. 淡路島三原町 (5exs., 31.VIII.1970)[AMo-0000198].

77. ウツミギセル *Phaedusa (Phaedusa) oostoma* (MÖLLENDORF)

【神奈川県】伊勢原市大山阿夫利神社下社 (1ex., 4. III. 1984)[AMo-0000202].

備考: アワジウツミギセルとウツミギセルは, ナミギセルと同種や亜種とされることもあるが(黒田, 1963; 湊, 1988, 1994), 報告者らは, 隣接したナミギセル個体群とは殻サイズ等で識別されるので, 東(1995)の取り扱いと同様に, 暫定的に別種としておきたい。

78. タイシャクギセル *Phaedusa (Phaedusa) costifera* (KURODA & TAKI)

【岡山県】井原市芳井町日南山骨峽 (30exs., 29.IV.1972)[AMo-0000203]. 【広島県】庄原市帝釈峽 (3exs., 17.XI.1973)[AMo-0000204].

79. ギュリックギセル(ギュリキギセル・ギューリキギセル) *Phaedusa (Breviphaedusa) addisoni addisoni* (PILSBRY)

【鹿児島県】日置市吹上町千本楠 (3exs., 23.VIII.1969)[AMo-0000205]. 日置市吹上町千本楠 (3exs., 23.VIII.1969)[AMo-0000206]. 日置市吹上町千本楠 (12exs., 23.VIII.1969)[AMo-0000207].

備考: 本種の和名表記に関して, 従来, ギュリキギセル(黒田 1963) やギューリキギセル(湊 1988) とされてきたが, 献名された人物に対する渡辺・榎本(1988)の訳に従い, ギュリックとした。ただ, 岡本・奥谷(1997)は, 和名表記に関して詳細に解説しているので, そちらも参照願いたい。

80. ヒクギセル *Phaedusa (Breviphaedusa) gouldi* (A. ADAMS)

【不明】(飼育個体) (3exs., 採集日不明, 西邦雄)[AMo-0000208].

81. トライオンギセル *Phaedusa (Breviphaedusa) tryoni* (PILSBRY)

【東京都】三宅島 (2exs., 採集日不明)[AMo-0000209].

82. ナミコギセル *Euphaedusa tau* (BÖTTGER)

【東京都】目黒区目黒不動 (15exs., 9.X.1977)[AMo-0000214].

【大阪府】大阪市内 (2exs., 採集日不明)[AMo-0000215]. 【鳥取

県】鳥取市久松公園 (1ex., 18.IX.1973)[AMo-0000173]. 鳥取市久松公園 (3exs., 13.I.1974)[AMo-0000213]. 鳥取市摩尼山 (2exs., 24.IX.1973)[AMo-0000210]. 鳥取市松上神社 (48exs., 8.XII.1974)[AMo-0000211]. 鳥取市松上神社 (32exs., 8.XII.1974)[AMo-0000212].

83. ヒロクチコギセル *Reinia variegata* (A. ADAMS)  
【長崎県】平戸市亀岡城 (5exs., 15.VII.1973)[AMo-0000216].

84. カザリギセル(新称) *Papillifera bidens* (LINNAEUS)  
(図 5)

【イタリア】ポンペイ (2exs., 7.X.1975, 志村辰夫)[AMo-0000217].  
備考：本種は, *P. papillaris* (Müller, 1774) とされることも多い (Bodon *et al.*, 1995)。和名は, 縫合下に褐色斑を有することから名付けた。

#### XVII. オカクチキレガイ科 Subulinidae

85. オカチョウジガイ *Allopeas kyotoense* (PILSBRY & HIRASE)  
【東京都】田無市 (10exs., ??.1974)[AMo-0000218].

86. オオクビキレガイ *Rumina decollata* (LINNAEUS)  
【ギリシャ】アテネ：Acropolis hill (3exs., 2.X.1975, 志村辰夫)  
[AMo-0000219].

#### XVIII. ネジレガイ (タワラガイ) 科 Streptaxidae

87. タワラガイ *Sinoennea iwakawa iwakawa* (PILSBRY)  
【岡山県】新見市満奇洞 (2exs., 23.IX.1974)[AMo-0000220].

#### XIX. オカモノアラガイ科 Succineidae

88. オカモノアラガイ *Succinea lauta* GOULD  
【北海道】斜里町知床五湖 (二湖) (1ex., 17.VII.1984)[AMo-

-0000221].

#### XX. ベッコウマイマイ科 Helicarionidae

89. カサキビ *Trochochalamys crenulata* (GUDE)  
【岡山県】真庭市神庭の滝 (1ex., 14.X.1973)[AMo-0000222].

90. ハリマキビ *Parakaliella harimensis* (PILSBRY)  
【東京都】田無市 (1ex., ??.1974)[AMo-0000223].

91. ウラジロベッコウ *Urazirochlamys doenitzii*  
(REINHARDT)

【岡山県】新見市井倉洞 (1ex., 14.X.1973)[AMo-0000224]. 【広島県】庄原市帝釈峡 (1ex., 17.XI.1973)[AMo-0000225].

92. コヤノベッコウ *Bekkochlamys* sp. cf. *B. shikokuensis*  
(PILSBRY & HIRASE)

【広島県】庄原市帝釈峡 (1ex., 17.XI.1973)[AMo-0000226].

#### XXI. コハクガイ科 Zonitidae

93. コハクガイ *Zonitoides (Zonitellus) arboreus* (SAY)  
【東京都】田無市 (2exs., ??.1974)[AMo-0000227].

#### XXII. ナンバンマイマイ (ニッポンマイマイ) 科 Camaenidae

94. ニッポンマイマイ *Satsuma japonica japonica*  
(PFEIFFER)

【東京都】八王子市高尾山 (7exs., 18.IV.1976)[AMo-0000228]. 【新潟県】糸魚川市 (旧青海町) 親不知 (1ex., 4.VIII.1980)[AMo-0000230]. 妙高市妙高原苗名滝 (1ex., ? 夏.1971) [AMo-0000231]. 【長野県】北部飯縄山麓 (1ex., 5.VIII.1980)[AMo-0000229].

95. カドバリニッポンマイマイ *Satsuma japonica carinata* (PILSBRY & GULICK)

【愛知県】知多半島師崎 (3exs., 7.X.1971)[AMo-0000232].

備考：ニッポンマイマイのうち, 中部地方を中心に, 石灰岩地や島嶼で周縁角の明瞭な群が認められ, 一般的に本亜種とされている。今回の同定も, ほぼこの伝統を踏襲するものであるが, タイプ産地の滋賀県伊吹から連続した分布を示すものと考えている。加藤 (1981) は, Gould (1969) の研究を紹介しながら, 石灰岩地での周縁に強い角の出る現象を示している。そして, 後述するように, 同属のシメクチマイマイでは, いくつもの「タイプ」が知られており, ニッポンマイマイでも今後の詳細な研究が望まれる。

96. コニッポンマイマイ (コニホンマイマイ) *Satsuma*



図 5. カザリギセル *Papillifera bidens* (LINNAEUS), イタリア・ポンペイ [AMo-0000217].

*heteroglypta* (PILSBRY)

【兵庫県】香美町(旧香住町)大乘寺(1ex., 23.VI.1974)[AMo-0000244]. 【鳥取県】鳥取市松上神社(2exs., 8.XII.1974)[AMo-0000234]. 鳥取市鹿野城跡(5exs., 16.IX.1973)[AMo-0000235]. 鳥取市鹿野城跡(2exs., 16.IX.1973)[AMo-0000236]. 三朝町三徳山(4exs., 29.VII.1974)[AMo-0000237]. 三朝町東小鹿(1ex., 16.IX.1973)[AMo-0000233]. 【岡山県】真庭市(旧北房町)(1ex., 23.IX.1974)[AMo-0000242]. 新見市石蟹(1ex., 14.X.1973)[AMo-0000239]. 新見市満奇洞(4exs., 23.IX.1974)[AMo-0000240]. 新見市満奇洞(3exs., 23.IX.1974)[AMo-0000241]. 真庭市神庭の滝(1ex., 14.X.1973)[AMo-0000238]. 奈義町菩提寺(2exs., 2.VI.1974)[AMo-0000243]. 【高知県】香美市龍河洞(6exs., 22.XI.1974)[AMo-0000245]. 香美市龍河洞(3exs., 22.XI.1974)[AMo-0000246].

備考：本種は、通常ニッポンマイマイの亜種とされることが多い(黒田, 1963; 湊, 1988)。しかし、本種は、殻高が高く、淡色の色彩を有し、分布域も近畿地方西部から中国・四国におよそ連続していることから、原記載と同様に別種と考えた。なお、近畿地方東部を中心に分布する2亜種、マルニッポンマイマイ *S. j. satsuma* (Pilsbry, 1900) とヌノメニッポンマイマイ(スジリニッポンマイマイ) *S. j. granulose* (Pilsbry, 1902) の殻形態と分布域は大きく重複し、現時点では同一亜種として取り扱うのが良いと考える。なお、本種の和名には従来コニホンマイマイが多用されてきたが、基本名のニッポンマイマイにあわせてコニッポンマイマイの表記を推奨したい。

97. シメクチマイマイ *Satsuma ferruginea* (PILSBRY)

【岡山県】真庭市(旧北房町)(6exs., 23.IX.1974)[AMo-0000247]. 新見市満奇洞(1ex., 23.IX.1974)[AMo-0000250]. 【高知県】香美市龍河洞(2exs., 22.XI.1974)[AMo-0000248]. 香美市龍河洞(9exs., 22.XI.1974)[AMo-0000249].

備考：シメクチマイマイには、生殖器の形態と分布域にいくつもの「タイプ」が報告されており(例えば早瀬・波部, 1993等), 湊・多田(2000)は四国南部において、異なった生殖器を有する群が地理的にまとまっていることを示した。この湊・多田(2000)の研究に従うと、本コレクションの龍河洞産はC型ということになる。生殖器の形態と分布域が異なることから、今後の検討により、「種レベル」で識別される群も存在すると考えられる。

98. ヤマタカマイマイ *Satsuma papilliformis* (KOBELT)

【鳥取県】鳥取市観音院(1ex., 13.IV.1974)[AMo-0000252]. 鳥取市摩尼山(1ex., 13.I.1974)[AMo-0000253]. 鳥取市松上神社(1ex., 8.XII.1974)[AMo-0000251]. 若桜町加地谷(1ex., 7.V.1973, 清末忠人)[AMo-0000254]. 三朝町三徳山(1ex.,

16.IX.1973)[AMo-0000255].

99. コベソマイマイ *Satsuma myomphala myomphala* (MARTENS)

【高知県】香美市龍河洞(3exs., 22.XI.1974)[AMo-0000256].

100. ヘソアキコベソマイマイ *Satsuma myomphala euomphala* (PILSBRY & HIRASE) (図6)

【鳥取県】米子市米子城跡(1ex., 13.X.1973)[AMo-0000263]. 米子市米子城跡(2exs., 9.IX.1973)[AMo-0000264]. 米子市米子城跡(3exs., 採集日不明)[AMo-0000262]. 【島根県】松江市美保関町(1ex., 1.IX.1974)[AMo-0000265]. 松江市美保関町(2exs., 1.IX.1974)[AMo-0000266].

備考：本亜種とサンインコベソマイマイは、時に同種とされることもある(例えば湊, 1988)が、本コレクションではこの2タイプが同一産地(米子)から得られており、両者は別種と考えられる。

前田ら(1987)は、サンインコベソマイマイのタイプ産地(「因幡大御門」=鳥取県八頭町郡家殿大御門)で得られた標本をサンインコベソマイマイとして図示した(Pl. 19, fig. 271)。しかしこれは殻高が大きく、臍孔の広く開くものであり、実際にはヘソアキコベソマイマイである可能性が高い。一方サンインコベソマイマイのタイプ標本は、かなり殻高の低いものであり(Pilsbry, 1901a), ヘソアキコベソマイマイとは識別できる。すなわち鳥取県東部においても、これら2種が同所的に生息している可能性がある。

ヘソアキコベソマイマイは、隠岐諸島をタイプ産地とし、その他では松江市など限られた場所に生息するとされる(東, 1995; 岡村・野津, 2004)。今回のコレクションや文献から、ヘソアキコベソマイマイは島根半島や米子市、そしておそらく鳥取県東部にも、比較的広く分布していることが明らかとなった。清末ら(1976)が“サンインコベソマイマイ”としているデータの中には、ヘソアキコベソマイマイが混じっている可能性が高い。

島嶼部等を除く西日本各地のコベソマイマイは殻径45mm程度の大形の群も多く、臍孔が閉じるのに対し、ヘソアキコベソマイマイは小形で、臍孔が明瞭に開くという相違が認められ、コベソマイマイとの分布域の重複もないようである。報告者には今後の検討でヘソアキコベソマイマイは従来の亜種レベルから種レベルとなる可能性も高いと思われる。ただ、ヘソアキコベソマイマイのタイプ産地である隠岐諸島の“コベソマイマイ”は、大きな殻サイズの変異がある(湊, 1983)とされる。タイプ標本の検討を含め、今後の詳細な検討が望まれる。

ただ、コベソマイマイでは西日本の島嶼や半島部では小形化していることは良く知られており、いくつかの亜種名等が与えられている（例えば東, 1995; 黒田, 1963; 湊, 1988）。その中には、ヘソアキコベソマイマイとほぼ同様な殻形態を有するタイプに淡路島から記載されたアナアキコベソマイマイ *S. myomphala minor* (Gude, 1900) がある。このタイプが図示されたことはほとんどなかったが、前田ら (1987) は、そのタイプロットと思われる個体を図示した (pl. 18, fig. 266.)。報告者の検討できた淡路島のコベソマイマイ類 (千葉県立中央博物館所蔵: 前田・大熊コレクションや品川コレクションを含む) は全て大形・臍孔の閉じるコベソマイマイのタイプのみであった。つまり、淡路島には、異なった二型 (= 種) のコベソマイマイ類が知られていたことがわかる。また、福田・鹿野 (1986) は山口県瀬戸内海の小島嶼、竹島から臍孔がわずかに開く小形の個体群を報告し、アナアキコベソマイマイとの関連も議論している。ヘソアキコベソマイマイとアナアキコベソマイマイの殻形態の類似は、単なる島嶼等の隔離個体群による収斂なのか、系統を反映するものなのか、今後の検討が必要であろう。

ただ、アナアキコベソマイマイは、コベソマイマイのシノニムとされたこともあり、近年の生息情報がほとんどないようで、上記のように広範囲に収集された1960年代以降のコレクション中に認められなかったことから、絶滅に瀕している可能性が高いと思われる。

101. サンインコベソマイマイ *Satsuma omphalodes* (PILSBRY) (図7)

【鳥取県】鳥取市松上神社 (2exs., 7.IV.1977, 清末忠人) [AMo-0000257]. 鳥取市用瀬町江波 (1ex., ?.VIII.1972, 谷岡 浩) [AMo-0000258]. 米子市米子城跡 (1ex., 採集日不明) [AMo-0000259]. 【岡山県】新見市井倉洞 (1ex., 14.X.1973) [AMo-0000260]. 新見市満奇洞 (2exs., 23.IX.1974) [AMo-0000261]. 新見市満奇洞 (2exs., 23.IX.1974) [AMo-0000548].

102. パンカラマイマイ *Pancala batanica pancala* (SCHMACKER & BÖTTGER)

【台湾】恒春 (2exs., 採集日不明) [AMo-0000267].

XXIII. オナジマイマイ科 Bradybaenidae

103. オナジマイマイ *Bradybaena similaris* (FÉRUSSAC)

【埼玉県】平林寺 (1ex., 12.II.1979) [AMo-0000271]. 【東京都】大田区洗足池 (2exs., ?.VI.1970) [AMo-0000270]. 大田区洗足池 (1ex., 30.VII.1970) [AMo-0000269]. 【鳥取県】智頭町 (1ex., ?.V.1972, 谷岡 浩) [AMo-0000268].

104. タメトモマイマイ *Phaeohelix phaeogramma* (ANCEY)

【鹿児島県】沖永良部島 (2exs., 31.VII.1973) [AMo-0000274]. 沖永良部島和泊 (4exs., 27.VII.1969) [AMo-0000272]. 徳之島山 (11exs., 29.VII.1969) [AMo-0000273].

105. チャイロマイマイ *Phaeohelix submandarina* (PILSBRY)

【鹿児島県】屋久島安房 (1ex., 採集日不明) [AMo-0000275].

106. カタマイマイ *Mandarina mandarina* (SOWERBY)

【東京都】小笠原諸島父島夜明山 (5exs., 5.V.1974) [AMo-0000276].

107. ヒメマイマイ *Ainohelix editha* (A. ADAMS)

【北海道】利尻島鴛泊 (1ex., 20.VII.1984) [AMo-0000277].

108. ホンブレイクマイマイ (ホンブレイキマイマイ/レブンマイマイ) *Karaftohelix blakeana* (NEWCOMB)

【北海道】斜里町知床五湖 (3exs., 17.VII.1984) [AMo-0000279]. 礼文島桃岩 (4exs., 19.VII.1984) [AMo-0000278].

備考: 本種の和名と学名の組み合わせには混乱が見られていたが (例えば黒田, 1963), 波部 (1977a) の再整理の見解を採用する研究者が多いので (例えば東, 1995; 湊, 1988 等), ここではそれを踏襲したい。なお、従来、貝類学では、「ブレイキ」と表記してきたが、他分野等では献名された W. P. Blake をブレイクと表記している例が大半を占めているため、表記を変更した。ただ、岡本・奥谷 (1997) は人名をブレイクと表記しながら、和名はブレイキを踏襲している。

109. エゾマイマイ *Ezohelix gainesi* (PILSBRY)

【北海道】利尻島鴛泊 (1ex., 20.VII.1984) [AMo-0000281]. 利尻島鴛泊 (1ex., 20.VII.1984) [AMo-0000280].

110. オキナワウスカワマイマイ *Acusta despecta despecta* (SOWERBY)

【鹿児島県】沖永良部島徳時 (2exs., 31.VII.1973) [AMo-0000283]. 沖永良部島和泊 (2exs., 27.VII.1969) [AMo-0000282]. 徳之島犬田布岬 (1ex., 28.VII.1969) [AMo-0000285]. 徳之島山 (12exs., 29.VII.1969) [AMo-0000284].

111. ウスカワマイマイ *Acusta despecta sieboldiana* (PFEIFFER)

【千葉県】千葉市若葉区加曽利貝塚 (1ex., 21.IV.1985) [AMo-0000293]. 【東京都】大田区洗足池 (2exs., ?.VI.1970) [AMo-0000294]. 【鳥取県】鳥取市日赤前 (1ex., ?.IV.1973) [AMo-0000288]. 鳥取市日赤前 (3exs., 23.IX.1973) [AMo-0000286]. 鳥取

市日赤裏 (2exs., ? 春, 1974)[AMo-0000287]. 【岡山県】津山市津山城跡 (2exs., 10.X.1973)[AMo-0000289]. 【福岡県】福岡市福岡教育大学附属小校校庭 (5exs., 採集日不明)[AMo-0000292]. (市町村不明) (1ex., 採集日不明)[AMo-0000290]. 【鹿児島県】日置市吹上町千本楠 (1ex., 23.VIII.1969)[AMo-0000291].

112. オオベソマイマイ *Aegista vermis* (REEVE)



図 6a-c. ヘソアキコベソマイマイ *Satsuma myomphala euomphala* (PILSBRY & HIRASE), 鳥取県米子市米子城跡 [AMo-0000262].

【沖縄県】石垣島米原野ヤシ公園原生林内 (2exs., ?V.1973)[AMo-0000295].

113. ジタロウマイマイ *Aegista awajiensis* (GUDE)

【高知県】香美市龍河洞 (21exs., 22.XI.1974)[AMo-0000296]. 香美市龍河洞 (5exs., 22.XI.1974)[AMo-0000297].



図 7a-c. サンインコベソマイマイ *Satsuma omphalodes* (PILSBRY), 鳥取県米子市米子城跡 [AMo-0000259].

114. コウベマイマイ *Aegista kobensis kobensis*  
(SCHMACKER & BÖTTGER)

【兵庫県】神戸市北区箕谷下谷上 (2exs., ? .XII.1972)[AMo-0000303]. 宍粟市一宮町 (2exs., 15.IX.1974)[AMo-0000302]. 【鳥取県】日野町根雨神社 (1ex., 14.X.1973)[AMo-0000298]. 【岡山県】新見市井倉洞 (1ex., 14.X.1973)[AMo-0000301]. 津山市津山城跡 (5exs., 10.X.1973)[AMo-0000299]. 津山市津山城跡 (10exs., 10.X.1973)[AMo-0000300]. 津山市津山城跡 (4exs., 23.IX.1974)[AMo-0000018].

115. コオオベソマイマイ *Aegista proba minula*  
(PILSBRY)

【鳥取県】鳥取市松上神社 (1ex., 8.XII.1974)[AMo-0000304]. 【岡山県】新見市石蟹 (1ex., 14.X.1973)[AMo-0000305]. 新見市満奇洞 (2exs., 23.IX.1974)[AMo-0000306].

116. コオオベソマイマイ類似種 *Aegista* sp. cf. *A. proba minula* (PILSBRY)

【新潟県】妙高市妙高高原苗名滝 (1ex., ? .夏 .1971)[AMo-0000307].

備考：新潟県産のものは、コオオベソマイマイに類似した殻形態を有するが、このような形態を持つ群の検討は進んでおらず、暫定的に別種としてリストにあげた。

117. ハタケダマイマイ *Aegista hatakedai hatakedai*  
KURODA & HABE

【岡山県】新見市井倉洞 (8exs., 14.X.1973)[AMo-0000313]. 新見市石蟹 (1ex., 14.X.1973)[AMo-0000308]. 新見市石蟹 (2exs., 14.X.1973)[AMo-0000309]. 新見市石蟹 (41exs., 14.X.1973)[AMo-0000310]. 新見市満奇洞 (1ex., 23.IX.1974)[AMo-0000311]. 新見市満奇洞 (3exs., 23.IX.1974)[AMo-0000312].

118. カワムラケマイマイ *Aegista hatakedai kawamurai*  
KURODA & HABE

【岡山県】真庭市神庭の滝 (1ex., 14.X.1973)[AMo-0000314]. 真庭市神庭の滝 (4exs., 14.X.1973)[AMo-0000315].

119. チクヤケマイマイ *Aegista aemula aemula* (GUDE)

【島根県】松江市城山 (5exs., 15.XII.1974)[AMo-0000316].

120. オウミケマイマイ *Aegista omiensis* (PILSBRY)

【岐阜県】高鷲村 (2exs., 14.IX.1975, T.Suzuki)[AMo-0000317].

121. オオケマイマイ *Aegista vatheleti* (MABILLE)

【東京都】八王子市高尾山 (1ex., 18.IV.1976)[AMo-0000328]. 【新潟県】妙高市妙高高原苗名滝 (4exs., ? .夏 .1971)[AMo-0000329]. 【京都府】京都市右京区高雄神護寺 (2exs., 15.XI.1970)[AMo-0000327]. 【鳥取県】鳥取市松上神社 (2exs., 8.XII.1974)[AMo-

0000318]. 鳥取市国府町雨滝 (1ex., 12.VI.1977, 清末忠人)[AMo-0000320]. 鳥取市国府町雨滝 (2exs., 7.VII.1973)[AMo-0000319]. 鳥取市国府町 (1ex., 7.VII.1973)[AMo-0000321]. 三朝町三徳山 (2exs., 16.IX.1973)[AMo-0000323]. 三朝町三徳山 (1ex., 16.IX.1973)[AMo-0000324]. 三朝町三徳山 (2exs., 29.VII.1974)[AMo-0000322]. 【岡山県】真庭市神庭の滝 (1ex., 14.X.1973)[AMo-0000326]. 湯原 (1ex., 6.X.1974)[AMo-0000325].

備考：本種の種小名には、*vulgivaga* (Schmacker & Böttger, 1890) が良く用いられるが、報告者は波部・小菅 (1967) の見解と同様に、*vatheleti* を用いることとする。*A. vatheleti* は Mabilie (1888) により Owari, Japan をタイプ産地として記載され、黒田 (1963) でも *A. vatheleti* に対して「オオケマイマイによく一致する。或は畸型であったか、或は寸法活字の誤りか？」とコメントされている。極めてよく調査されている尾張周辺の陸産貝類相から考えて、*A. vatheleti* はオオケマイマイの殻高の高い変異型と考えるのが自然だと思われる。つまり、*A. vulgivaga* は *A. vatheleti* のシノニムと考えられる。なお、オオケマイマイ等の周縁部に比較的明瞭な角があり、殻皮に毛状付属物を持つものに対して、亜属 *Plectotropis* を用いることも多いが、報告者は、この亜属の殻形質は *Aegista* 亜属と漸移的なので、取りあえず、ここでは *Plectotropis* をシノニムとして取り扱った。

122. ツシマケマイマイ *Aegista trochula* (A. ADAMS)

【長崎県】対馬 (2exs., 1.VI.1949, 高橋五郎)[AMo-0000330].

備考：本種は、従来、生殖器に矢囊・粘液腺等を欠くことで、亜属 *Neoagista* として識別されてきた。しかし、類似の矢囊等を欠く現象は、関東地方のコケラマイマイ *A. mikuriyensis* (Pilsbry, 1902) でも見られており (反田, 1978), 亜属を分離する形質ではないと考えられる。そのため、ここでは *Neoagista* を *Aegista* のシノニムとみなした。なお、中国・朝鮮半島に隣接した地域に分布する種では“*Neoagista*”の特徴を有することも考えられ、またオオケマイマイで述べた *Plectotropis* や後述するオトメマイマイ属 *Trishoplita* の系統的な解析が行われ、“属”のタイプ種を含む群がまとまった場合には、これらの“属”が復活する可能性もあろう。

123. マヤサンオトメマイマイ (マヤサンマイマイ) 類似種 *Trishoplita* sp. cf. *T. mayasana* AZUMA (図 8)

【鳥取県】鳥取市摩尼山 (2exs., 24.IX.1973)[AMo-0000331].

備考：本コレクションに、殻径 7.3mm, 殻高 5.1mm 程度と小形で、明褐色、強い周縁角を持つオトメマイマイ類が 2 個体含まれていた (鳥取市摩尼山産)。両個体とも、大形と考えられる幼貝であった。この標本

は、殻口部のみであったが、やや疎で、比較的大きな鱗片状付属物を有していた。その付属物は、殻形態が類似する兵庫県摩耶山から記載されたマヤサンオトメマイマイより長く疎であった。また本標本では、弱いが明らかで、密な螺肋が底面にのみ認められた。後述するクロオトメマイマイ類似種と共に、今後の詳細な検討が望まれる。

124. クロオトメマイマイ類似種 *Trishoplita* sp. cf. *T. commoda fusca* GUDE (図9)

【島根県】松江市美保関町 (2exs., 1.IX.1974)[AMo-0000332].

備考：クロオトメマイマイは小形で、大きな殻高、濃褐色、周縁に弱い角を有し、底面に弱い螺肋を持つことも多く、鱗片状付属物を欠くことを特徴とする（広島県帝釈峡産 [CBM-ZM 139555] および和歌山県古座川町松根産 [CBM-ZM 139556]）。本コレクション中の美保関産の標本（殻径 9.0mm, 殻高 6.9mm）は、底面に螺肋を欠き、細かな打痕や剥離しやすいやや粗な鱗片状付属物を有していた（幼貝での観察）。これらの特徴から、本標本はクロオトメマイマイとは別種と考えた。

一般的に、全体的に小形で、大きな殻高と平滑な殻表を有する群をオトメマイマイ属 *Trishoplita* とし、中・大形で殻高が低く、殻表に毛状・鱗片状付属物を持つ群をオオベソマイマイ属 *Aegista* とする分類がなされている（例えば東, 1995）。しかし、従来からオトメマイマイ類の殻形を有しながら、殻表には鱗片状付属物を有する種も知られており、付属物の有無だけでは両属の識別形質とはならない。今回の観察で、クロオトメマイマイ類似種や後述するチャイロオトメマイマイ

でも臍孔部等に鱗片状付属物が認められた。湊 (2004) によれば、この両属の生殖器形態は類似し、識別できないという。また湊 (2004) で示された種や今回観察された2種等を含めたものが、単系統とはならない可能性も否定はできない。

125. エンドウマイマイ *Trishoplita commoda endo* (PILSBRY & HIRASE)

【岡山県】新見市満奇洞 (1ex., 23.IX.1974)[AMo-0000333].

備考：本種群の分類学的な取り扱いに関しては、未だ統一的な検討が行われていないと考えられる。本コレクションには、本種群の岡山県新見市産が含まれていた。自然環境研究センター (2002) では、中国・四国両地方のものをマメマイマイ *T. c. commoda* (A. Adams, 1868) としているようであるが、*T. c. commoda* のタイプ産地と想定されている門司周辺 (黒田, 1963) の山口西部と北部九州にプロットはなく、この周辺にマメマイマイ類は分布していない可能性が高い。また日本の貝類学の基礎を築いた黒田徳米博士のコレクションでは、マメマイマイ *T. c. commoda* はリストされておらず、タイプ産地の滋賀県大津市瀬田のものと共に広島県帝釈峡のものをエンドウマイマイ *T. commoda endo* としている (大原・大谷, 2002)。

一方、上記の黒田博士が実質的に管理・整理していた日本貝類学の基本となった平瀬コレクションでは、*T. c. commoda* に北海道渡島産の標本を当てている例がある (京大総合博物館 # 1590; [http://www.museum.kyoto-u.ac.jp/collection/Shell/index\\_Shell.htm](http://www.museum.kyoto-u.ac.jp/collection/Shell/index_Shell.htm))。この地方から東北地方日本海側に分布する本種群には、トビシママメマイマイ *T. c. conulina* (Martens, 1867) が当てら

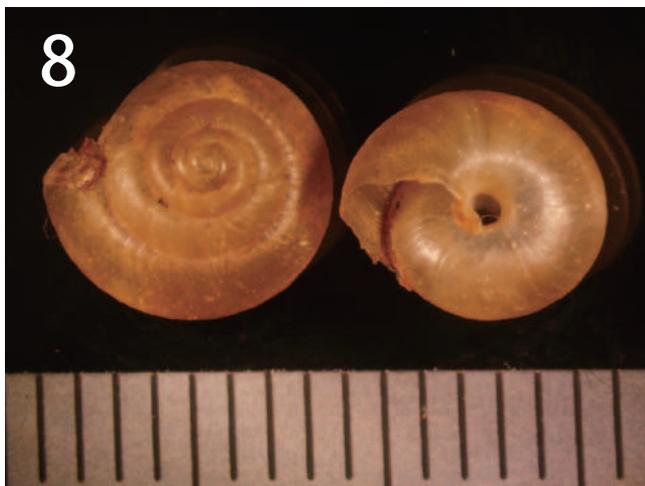


図8. マヤサンオトメマイマイ類似種 *Trishoplita* sp. cf. *T. mayasana* AZUMA, 鳥取県鳥取市摩耶山 [AMo-0000331].

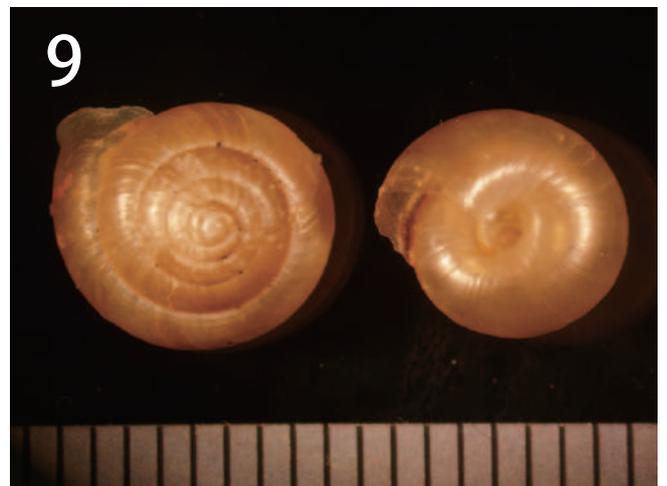


図9. クロオトメマイマイ類似種 *Trishoplita* sp. cf. *T. commoda fusca* GUDE, 島根県松江市美保関町 [AMo-0000332].

れることも多い。

これらのことから、報告者は学名やより詳細な分類学的な検討は残るものの、実体を示す和名の混乱を避けるために、暫定的に以下のように取り扱うこととしたい。

- ・マメマイマイ (トビシママメマイマイ) *T. commoda conulina*: 北海道・東北地方 (日本海側) .
- ・エンドウマイマイ *T. commoda endo*: 近畿・中国・四国 .

126. チャイロオトメマイマイ *Trishoplita mesogonia* (PILSBRY)

【兵庫県】作用町瑠璃寺 (1ex., 27.X.1974)[AMo-0000336]. 【鳥取県】鳥取市久松公園 (1ex., 13.I.1974)[AMo-0000335]. 智頭町 (2exs., ?X.1971, 谷岡 浩)[AMo-0000334]. 【鳥取県】米子市米子城跡 (1ex., 13.X.1973)[AMo-0000337].

備考: 今回本種に同定したもののうち、智頭町産 2 個体 (成貝) のうち 1 個体の臍孔部に極めて弱い螺肋とやや密な微細な鱗片状付属物が認められた。同地の他個体および米子城跡産 (幼貝) に、これらは確認できなかった。

127. オトメマイマイ *Trishoplita goodwini* (SMITH)

【兵庫県】粟鹿神社 (6exs., 16.IX.1974)[AMo-0000338].

128. アワジオトメマイマイ類似種 *Trishoplita* sp. cf. *T. awajiensis* PILSBRY

【新潟県】妙高市妙高高原苗名滝 (5exs., ? 夏 .1971)[AMo-0000339].

129. スミスオトメマイマイ *Trishoplita smithiana* PILSBRY

【高知県】香美市龍河洞 (2exs., 22.XI.1974)[AMo-0000340]. 香美市龍河洞 (43exs., 22.XI.1974)[AMo-0000341].

130. ダコスタマイマイ *Trishoplita dacostae dacostae* (GUDE)

【鹿児島県】日置市吹上町千本楠 (1ex., 23.VIII.1969)[AMo-0000342]. 日置市吹上町千本楠 (2exs., 23.VIII.1969)[AMo-0000344]. 日置市吹上町千本楠 (3exs., 23.VIII.1969)[AMo-0000343].

131. コウダカシロマイマイ *Trishoplita eumenes cretacea* (GUDE)

【鳥取県】倉吉市打吹城跡 (1ex., 16.IX.1973)[AMo-0000345]. 伯耆町 (旧溝口町) (2exs., 14.X.1973)[AMo-0000346]. 米子市米子城跡 (1ex., 9.IX.1973)[AMo-0000347]. 日野町根雨神社

(1ex., 21.VI.1973)[AMo-0000349]. 日野町根雨神社 (1ex., 14.X.1973)[AMo-0000348]. 【岡山県】真庭市 (旧北房町) (3exs., 23.IX.1974)[AMo-0000358]. 新見市井倉洞 (2exs., 14.X.1973)[AMo-0000350]. 新見市井倉洞 (5exs., 14.X.1973)[AMo-0000351]. 新見市井倉洞 (1ex., 14.X.1973)[AMo-0000352]. 新見市石蟹 (1ex., 14.X.1973)[AMo-0000355]. 新見市石蟹 (2exs., 14.X.1973)[AMo-0000356]. 新見市満奇洞 (4exs., 23.IX.1974)[AMo-0000353]. 新見市満奇洞 (5exs., 23.IX.1974)[AMo-0000354]. 新見市 (1ex., 採集日不明)[AMo-0000357]. 【広島県】庄原市帝釈峡 (2exs., 17.XI.1973)[AMo-0000359]. 【不明】 (1ex., 採集日不明)[AMo-0000360].

132. ツクシマイマイ *Euhadra herklotsi* (MARTENS)

【福岡県】福岡市大豪 (2exs., 採集日不明)[AMo-0000363]. 福岡市福岡城跡 (1ex., 採集日不明)[AMo-0000361]. 福岡市福岡城跡 (4exs., 採集日不明)[AMo-0000362]. 【長崎県】対馬厳原町 (2exs., 採集日不明)[AMo-0000364].

133. タカチホマイマイ *Euhadra nesiotica* (PILSBRY)

【鹿児島県】川内市新田神社 (3exs., 採集日不明)[AMo-0000365]. 日置市吹上町千本楠 (1ex., 23.VIII.1969)[AMo-0000366]. 日置市吹上町千本楠 (6exs., 23.VIII.1969)[AMo-0000367].

備考: 従来ツクシマイマイとされていた種およびいくつかの亜種は、近年の DNA 等の詳細な研究 (Nishi and Sota, 2007) によって、ほぼ九州の南北で、北のツクシマイマイと南のタカチホマイマイに分かれることが明らかとなった。

134. アワマイマイ *Euhadra awaensis* (PILSBRY)

【高知県】香美市龍河洞 (5exs., 22.XI.1974)[AMo-0000369]. 香美市龍河洞 (1ex., 採集日不明, 鹿取秀雄)[AMo-0000368].

135. イズモマイマイ *Euhadra idzumonis* (PILSBRY & GULICK)

【島根県】松江市美保関町 (1ex., 1.IX.1974)[AMo-0000371]. 松江市美保関町 (1ex., 1.IX.1974)[AMo-0000372]. 松江市美保関町 (2exs., 1.IX.1974)[AMo-0000373]. 隠岐島後: 隠岐の島町西郷 (2exs., 23.X.1973, 清末忠人)[AMo-0000374]. 隠岐島後: 隠岐の島町西郷 (1ex., 14.XI.1973, 清末忠人)[AMo-0000370].

136. クチベニマイマイ *Euhadra amaliae* (KOBELT)

【滋賀県】彦根市醒ヶ井 (1ex., 採集日不明, 谷岡 浩)[AMo-0000379]. 米原市伊吹山 (2exs., 14.IV.1974)[AMo-0000380]. 【京都府】京都市山科区 (1ex., 採集日不明, 谷岡 浩)[AMo-0000377]. 【大阪府】池田市 (1ex., 採集日不明)[AMo-0000378]. 【兵庫県】粟鹿神社 (2exs., 16.IX.1974)[AMo-0000376]. 宍粟市一宮町 (1ex., 15.IX.1974)[AMo-0000375].

137. サンインマイマイ *Euhadra dixonii dixonii* (PILSBRY)

【鳥取県】倉吉市打吹城跡 (3exs., 16.IX.1973)[AMo-0000381]. 伯耆町 (旧溝口町) (1ex., 14.X.1973)[AMo-0000382]. 米子市淀江町 (1ex., 8.VI.1976, 清末忠人)[AMo-0000383]. 米子市米子城跡 (3exs., 9.IX.1973)[AMo-0000384]. 米子市米子城跡 (3exs., 13.X.1973)[AMo-0000386]. 米子市米子城跡 (1ex., 採集日不明)[AMo-0000385]. 日野町根雨神社 (1ex., 21.VI.1973)[AMo-0000387]. 日野町根雨神社 (2exs., 14.X.1973)[AMo-0000388]. 【島根県】松江市美保関町 (2exs., 1.IX.1974)[AMo-0000397]. 松江市美保関町 (1ex., 1.IX.1974)[AMo-0000398]. 松江市月照寺 (1ex., 6.IX.1970)[AMo-0000399]. 松江市城山 (2exs., 16.XI.1975, 中島良典)[AMo-0000400]. 【岡山県】新見市井倉洞 (10exs., 14.X.1973)[AMo-0000392]. 新見市井倉洞 (2exs., 14.X.1973)[AMo-0000393]. 新見市石蟹 (4exs., 14.X.1973)[AMo-0000389]. 新見市石蟹 (2exs., 14.X.1973)[AMo-0000390]. 新見市石蟹 (2exs., 14.X.1973)[AMo-0000391]. 真庭市神庭の滝 (1ex., 14.X.1973)[AMo-0000394]. 真庭市神庭の滝 (3exs., 14.X.1973)[AMo-0000395]. 湯原 (1ex., 6.X.1974)[AMo-0000396]. 【広島県】庄原市帝釈峡 (2exs., 17.XI.1973)[AMo-0000401].

138. コウロマイマイ *Euhadra "latispira" yagurai*  
KURODA & HABE

【鳥取県】鳥取市久松山 (1ex., 26.VIII.1973)[AMo-0000404]. 鳥取市久松山 (1ex., 13.X.1974, 清末忠人)[AMo-0000405]. 鳥取市久松山城跡 (1ex., 18.IX.?) [AMo-0000403]. 鳥取市栲谷神社 (1ex., 25.VIII.1974)[AMo-0000407]. 鳥取市栲谷神社 (1ex., 11.VI.1975, 清末忠人)[AMo-0000406]. 鳥取市摩尼山 (1ex., 24.IX.1973)[AMo-0000408]. 鳥取市中町 (2exs., 22.VI.1973)[AMo-0000402]. 鳥取市大杣 (1ex., 30.IX.1973)[AMo-0000410]. 鳥取市松上神社 (1ex., 8.XII.1974)[AMo-0000409]. 鳥取市国府町岡益 (1ex., 15.VII.1975)[AMo-0000411]. (市町村不明) (4exs., 採集日不明)[AMo-0000414]. 【岡山県】奈義町菩提寺 (1ex., 2.VI.1974)[AMo-0000412]. 美作市大原? (1ex., 27.X.1974)[AMo-0000413].

備考：本種は従来、ハクサンマイマイの亜種とされてきたが、西・曾田 (2005) のミトコンドリア DNA による系統では、ハクサンマイマイと近縁ではなく、むしろサンインマイマイのクレードに含まれることが明らかになっている。学名に関しては、暫定的に従来の表記とした。

139. コウロマイマイ (小形) *Euhadra "latispira" yagurai*  
KURODA & HABE (small type)

【鳥取県】鳥取市中町 (1ex., ?.VII.1973)[AMo-0000477]. 鳥取市中町 (1ex., 31.XII.1973)[AMo-0000478]. 鳥取市松上神社 (1ex., 8.XII.1974)[AMo-0000476].

備考：今回のコレクション中には、同じ産地ラベル (鳥取市中町) の“コウロマイマイ”に、殻サイズの大小が認められた。同所では、セトウチマイマイも確認されているが、この種は小形で、高い殻高を有すること

で識別される。小形の群を当初、セトウチマイマイに含まれるものではないかと考えていたが、コウロマイマイの可能性もあるとの指摘を受けたので (増田, 私信), コウロマイマイ (小形) としておきたい。今後の詳細な検討が望まれる。なお、鳥取県のサンプルを含むミスジマイマイ属の DNA による西・曾田 (2005) の解析では、当然、セトウチマイマイとコウロマイマイは明らかに分離したものであることが示されている。

140. ツルガマイマイ *Euhadra latispira tsurugensis*  
(COCKERELL)

【福井県】坂井市丸岡城跡 (1ex., 採集日不明)[AMo-0000415]. 坂井市丸岡城跡 (1ex., 採集日不明)[AMo-0000416].

141. ニシキマイマイ *Euhadra sandai sandai* (KOBELT)

【京都府】京都市左京区鞍馬山 (1ex., 採集日不明)[AMo-0000417]. 京都市左京区鞍馬山 (1ex., 採集日不明)[AMo-0000418].

備考：本種は、多型的な種として知られており、遺伝的にもまとまりの良い群である (Ueshima and Asami, 2003 も参照)。西・曾田 (2005) は、種としてのまとまりは良いものの、隠岐諸島に分布する群 (オキニシキマイマイ *E. s. oki* Pilsbry, 1928) は中国地方日本海側のものではなく、京都や滋賀のものに近いことや、地理的距離と遺伝的距離との間に相関が認められたことなどを議論している。

また、“各亜種”の分類学的な取り扱いや亜種小名の使い方などには、各研究者間で相違が認められる (東, 1995; 川名, 2007; 黒田, 1963; 湊, 1988; 高田・波部, 1991)。西・曾田 (2005) で示されたように、各亜種に大きな分類学的な意味はない可能性が高いと思われる。しかし、遺伝的な系統関係とは別に、学名の用い方は異なるものの、多くの研究者の間で、地理的にまとまった殻形態を有する群の認識には大きな差はないものと考えられる。このような群は各地のレッドデータブックに登載されていたり (岡村・野津, 2004 等)、その地域の自然環境を把握する材料として有効であったりする (黒住ら, 2005) ため、報告者としては、便宜的な取り扱いであることは明らかであるが、亜種として示しておきたい。

ここでニシキマイマイ *E. s. sandai* としたものは、従来 *E. s. kuramana* Kuroda and Teramachi, 1937 として知られていた群で、高田・波部 (1991) に従って *E. s. sandai* とした。

142. コガネマイマイ (オカノマイマイ) *Euhadra sandai okanoi* PILSBRY & COCKERELL

【滋賀県】米原市伊吹山西中腹太平寺附近 (2exs., 採集日不明) [AMo-0000419].

備考：従来、和名のコガネマイマイは石川県・福井県から滋賀県湖東の山地に生息する火炎彩の発達する群に与えられており、学名には前記の *E. s. sandai* が用いられてきた。*E. s. sandai* がニシキマイマイとなったため、学名には、高田・波部 (1991) も示しているように、福井県嶺南地方の低地に分布し、黄白色の殻色を有する群と認識されていた *E. s. okanoi* を用いたい。和名は、学名に準拠するオカノマイマイではなく、従来から図示されてきたコガネマイマイとした。

143. ナミマイマイ *Euhadra sandai communis* PILSBRY  
【京都府】京都市 (1ex., 採集日不明) [AMo-0000421].

144. ダイセンニシキマイマイ *Euhadra sandai daisenica*  
KURODA

【兵庫県】豊岡市城崎四所神社 (1ex., 4.X.1970) [AMo-0000440]. 香美町 (旧香住町) 大乘寺 (1ex., 23.VI.1974) [AMo-0000436]. 香美町 (旧香住町) 大乘寺 (1ex., 23.VI.1974) [AMo-0000437]. 香美町 (旧香住町) 大乘寺 (1ex., 23.VI.1974) [AMo-0000438]. 香美町 (旧香住町) 大乘寺 (2exs., 23.VI.1974) [AMo-0000439]. 【鳥取県】鳥取市久松山城跡 (1ex., 18.IX.?) [AMo-0000424]. 鳥取市久松山 (1ex., 採集日不明) [AMo-0000423]. 鳥取市栗谷神社 (1ex., 8.VII.1973) [AMo-0000422]. 鳥取市檮谷神社 (1ex., 25.VIII.1974) [AMo-0000427]. 鳥取市檮谷神社 (1ex., 15.X.1975, 清末忠人) [AMo-0000426]. 鳥取市長田神社 (1ex., 18.IX.1973) [AMo-0000425]. 鳥取市摩尼山 (1ex., 24.IX.1973) [AMo-0000431]. 鳥取市摩尼山 (2exs., 24.IX.1973) [AMo-0000432]. 鳥取市松上神社 (3exs., 8.XII.1974) [AMo-0000430]. 鳥取市国府町雨滝 (1ex., 26.VIII.1973) [AMo-0000429]. 鳥取市国府町殿 (1ex., 30.IX.1973) [AMo-0000428]. 【岡山県】真庭市神庭の滝 (1ex., 14.X.1973) [AMo-0000435]. 美作市大原 (2exs., 27.X.1974) [AMo-0000433]. 美作市大原? (1ex., 27.X.1974) [AMo-0000434]. 【広島県】庄原市帝釈峽 (1ex., 採集日不明) [AMo-0000441].

備考：時に、兵庫県日本海側低地部のものはニシキマイマイとされることもあるが (例えば東, 1995), ここでは、やや大形で比較的殻高が高く、螺管が太いことから、中国地方のものと同じくダイセンニシキマイマイとした。

145. イセノナミマイマイ *Euhadra eoa communisiformis*  
KANAMARU

【岐阜県】(詳細不明) (1ex., 採集日不明) [AMo-0000443]. 【愛知県】常滑市南学楼 (1ex., ?.VI.1977) [AMo-0000442].

146. ギュリックマイマイ (ギュリキマイマイ・ギュリキマイマイ) *Euhadra eoa gulicki* PILSBRY

【兵庫県】神戸市須磨区大手町 (3exs., 採集日不明) [AMo-0000444]. 神戸市兵庫区有馬温泉温泉神社付近 (1ex., 採集日不明) [AMo-0000445].

備考：ギュリックギセルと同様に、本亜種の和名表記も渡辺・榎本 (1988) の訳に従い、ギュリックとした。

147. ナチマイマイ *Euhadra nachicola* KURODA

【和歌山県】那智勝浦町那智山 (1ex., 29.VI.1971 鹿取秀雄) [AMo-0000446].

148. シゲオマイマイ *Euhadra sigeonis* KURODA

【和歌山県】那智勝浦町那智山青岸渡寺附近 (1ex., 採集日不明) [AMo-0000447]. 那智勝浦町那智山青岸渡寺附近 (1ex., 採集日不明) [AMo-0000448].

149. セトウチマイマイ *Euhadra subnimbosa* (KOBELT)

【鳥取県】鳥取市中町 (2exs., ?.VI.1973) [AMo-0000450]. 鳥取市中町 (1ex., ?.VII.1973) [AMo-0000451]. 鳥取市大杓 (7exs., 30.IX.1973) [AMo-0000449]. 鳥取市新袋川土手 (1ex., ?.VI.1973) [AMo-0000452]. 鳥取市倉田八幡宮 (4exs., 27.XI.1977, 清末忠人) [AMo-0000453]. 鳥取市 (1ex., ?.?.1974) [AMo-0000454]. 智頭町土手 (9exs., 8.IX.1973) [AMo-0000455]. 三朝町東小鹿 (2exs., 16.IX.1973) [AMo-0000457]. 倉吉市打吹城跡 (2exs., 16.IX.1973) [AMo-0000456]. 【岡山県】新見市井倉洞 (4exs., 14.X.1973) [AMo-0000467]. 新見市井倉洞 (3exs., 14.X.1973) [AMo-0000468]. 新見市満奇洞 (9exs., 23.IX.1974) [AMo-0000465]. 新見市満奇洞 (8exs., 23.IX.1974) [AMo-0000466]. 真庭市神庭の滝 (1ex., 14.X.1973) [AMo-0000462]. 真庭市神庭の滝 (1ex., 14.X.1973) [AMo-0000464]. 津山市津山城跡 (2exs., 10.X.1973) [AMo-0000460]. 津山市鶴山公園 (3exs., 10.X.1973) [AMo-0000458]. 津山市鶴山公園 (4exs., 10.X.1973) [AMo-0000459]. 津山市 (8exs., 23.IX.1974) [AMo-0000461]. 美作市大原 (2exs., 27.X.1974) [AMo-0000469]. 湯原 (3exs., 16.X.1974) [AMo-0000471]. 【広島県】庄原市帝釈峽 (1ex., 17.XI.1973) [AMo-0000472]. 庄原市帝釈峽 (2exs., 17.XI.1973) [AMo-0000473]. 廿日市宮島 (2exs., 29.III.1969, 高橋五郎) [AMo-0000474]. 【高知県】南国市衣笠 (3exs., ?.IV.1973) [AMo-0000475].

150. セトウチマイマイ (アワジマイマイ型) *Euhadra subnimbosa* (KOBELT) (*maritima* (GULICK & PILSBRY) type)

【兵庫県】淡路島菊藻 (2exs., 10.II.1974) [AMo-0000479]. 淡路島菊藻 (3exs., 採集日不明, 鹿取秀雄) [AMo-0000481]. 淡路島 (1ex., 採集日不明) [AMo-0000480].

備考：アワジマイマイ型は、種レベルではセトウチマイマイに含まれることは確実で、亜種レベルでも識別する必要はないと考えられるが、淡路島の個体群は殻高が大きいことで安定しており、一つの安定したタイプとして別立てとした。

151. ミスジマイマイ *Euhadra peliomphala* (PFEIFFER)  
【埼玉県】川越市内 (1ex., 4.V.1980)[AMo-0000487]. 平林寺 (1ex., 12.II.1979)[AMo-0000488]. 【東京都】田無市 (1ex., 21.VII.1970)[AMo-0000484]. 田無市 (1ex., 21.VII.1970)[AMo-0000485]. 田無市 (2exs., 11.XI.1973) [AMo-0000486]. 青梅市玉堂美術館 (1ex., 29.VIII.1976) [AMo-0000483]. 八王子市高尾山 (1ex., 18.IV.1976)[AMo-0000482].
152. ヒタチマイマイ *Euhadra brandtii brandtii* (KOBELT)  
【群馬県】中之条町 (2exs., ?.VI.1970, 高橋 茂) [AMo-0000489].
153. サッポロマイマイ *Euhadra brandtii sapporo* (IJIMA)  
【北海道】千歳市支笏湖畔ユースホテル付近 (1ex., 7.IX.2002)[AMo-0000490].
154. イブキクロイワマイマイ *Euhadra senckenbergiana ibukicola* PILSBRY  
【滋賀県】米原市伊吹山西山麓 200 m地点 (1ex., 採集日不明, 鹿取秀雄) [AMo-0000491]. 多賀町霊仙大洞谷 (1ex., 採集日不明) [AMo-0000492].
155. イブキクロイワマイマイ (ミノマイマイ型)  
*Euhadra senckenbergiana ibukicola* PILSBRY (*minoensis* PILSBRY type)  
【滋賀県】近江八幡市近江八幡公園 (1ex., 採集日不明, 鹿取秀雄) [AMo-0000493].  
備考：ミノマイマイ型は、亜種イブキクロイワマイマイに包含されるものであるが、低地に分布する安定した型なので、便宜的に別立てとした。
156. アオモリマイマイ *Euhadra aomoriensis* (GULICK & PILSBRY)  
【岩手県】大船渡市 (5exs., 12.VII.1971)[AMo-0000494].  
備考：Ueshima and Asami (2003) は、右巻きのアオモリマイマイが、左巻きのヒダリマキマイマイから複数回 (少なくとも3回) “分化” したことを示す研究を発表している。すなわち“アオモリマイマイ” とされるものには系統の異なる複数の群が含まれており、将来的には細分化される可能性がある。現在のところ、今回のコレクション中の標本がタイプ標本と同じ系統群に含まれるかどうかは不明であり、その意味で今回の分類学的取り扱いとは暫定的なものである。
157. ヒダリマキマイマイ *Euhadra quaesita quaesita* (DESHAYES)  
【山形県】山形市蔵王 (1ex., 27.VII.1970)[AMo-0000495]. 【埼玉県】所沢市山口東椿峯 (2exs., 24.VII.1983)[AMo-0000503].

秩父武甲山 (2exs., 2.XII.1974, 高橋 茂) [AMo-0000502]. 【東京都】田無市 (1ex., 21.VII.1970)[AMo-0000499]. 田無市 (3exs., 21.VII.1970)[AMo-0000501]. 田無市 (1ex., ?.XII.1973)[AMo-0000500]. 青梅市御岳山 (3exs., 29.VIII.1976)[AMo-0000498]. 八王子市高尾山 (3exs., 18.IV.1976)[AMo-0000497]. 三宅島 (1ex., 採集日不明) [AMo-0000496]. 【新潟県】糸魚川市 (旧青海町) 親不知 (8exs., 4.VIII.1980)[AMo-0000505]. 糸魚川市 (旧青海町) 親不知 (3exs., 4.VIII.1980)[AMo-0000506]. 妙高市妙高高原苗名滝 (1ex., ?.夏.1971)[AMo-0000504].

備考：東北地方の一部の個体群では、殻形態のみで本種とムツヒダリマキマイマイ *E. decorate* (Pilsbry & Hirase, 1903) との識別が困難な場合も認められる。本コレクション中では、山形県蔵王のものはトバマイマイ *E. tobai* S. Hirase とラベルに記されていたもので、ヒダリマキマイマイに同定したが、ムツヒダリマキマイマイの可能性も否定しきれない。川名 (2007) は、蔵王をヒダリマキマイマイのみの分布域としており、この結果も参考にした。

なお、ヒダリマキマイマイとムツヒダリマキマイマイは異なった種であることや、ヒダリマキマイマイには他のミスジマイマイ属の種間より大きな遺伝的差異を有する複数の群の存在することも示されている (Ueshima and Asami, 2003)。

158. ヒラヒダリマキマイマイ *Euhadra scaevola interioris* PILSBRY  
【三重県】いなべ市藤原岳山権聖宝寺附近 (1ex., 採集日不明, 鹿取秀雄) [AMo-0000507]. いなべ市藤原岳 (3exs., 12.V.1974)[AMo-0000509]. いなべ市藤原岳 (2exs., 採集日不明) [AMo-0000508]. 【滋賀県】多賀町霊仙大洞谷 (1ex., 採集日不明, 鹿取秀雄) [AMo-0000510].
159. ミカワマイマイ *Euhadra scaevola mikawa* AMANO  
【愛知県】豊橋市嵩山—水穴間 (1ex., 採集日不明) [AMo-0000511].

#### XXIV. リンゴマイマイ (マイマイ/エスカルゴ) 科 Helicidae

160. マジョルカコマイマイ *Theba pisana* (MÜLLER)  
(図 10)  
【スペイン】マルベリヤ：コスタ・デル・ソル, Hotel Don Carlos (5exs., 27.XII.1986)[AMo-0000512].
161. サヤガタドイツマイマイ (オウシュウヒトスジマイマイ) *Arianta arbostorum* (LINNAEUS)  
【フランス】シャモニー (2exs., 15.X.1975, 志村辰夫) [AMo-0000513].

162. モリノオウシュウマイマイ (ヤブマイマイ/モリマイマイ) *Cepaea nemoralis* (LINNAEUS)  
【フランス】シャモニー (4exs., 15.X.1975, 志村辰夫) [AMo-0000514].

163. イスパニアマイマイ *Eobania vesmiculata* (MÜLLER)  
【ギリシャ】アテネ: Acropolis hill (4exs., 3.X.1975, 志村辰夫) [AMo-0000515].

164. サラセンマイマイ (スペインサラセンマイマイ)  
*Otala lactea* (MÜLLER) (図 11)  
【スペイン】マルベリヤ: コスタ・デル・ソル, Hotel Don Carlos (1ex., 27.XII.1986) [AMo-0000516].

備考: 本種とソバカスサラセンマイマイでは, 本種では内唇の黒色部が明瞭な境界を有するのに対し, 後種では黒色部が境界を持たず, 徐々に淡くなることで識別できる。サラセンマイマイの和名は, 鹿間 (1964) が Oran 産の *O. (O.) galena* Böttger に与えたものである。図示された Oran の標本の内唇黒色部は, 明瞭に分断されるので, サラセンマイマイは Abbott (1989) の図示した *O. lactea* に同定できる。そのため, Abbott (1989) の図に与えられたスペインサラセンマイマイ (肥後・後藤, 1995) は異名となる。

165. ソバカスサラセンマイマイ *Otala punctata* (MÜLLER) (図 12)  
【スペイン】バルセロナ (マーケット) (4exs., 31.XII.1986) [AMo-0000517].

備考: 本種のラベルには, 「マーケット」と記されており, いわゆる“エスカルゴ”として本種が食用に販売されていたものと思われる。千葉県立中央博物館には, アルゼンチン産の本種があり (CBM-ZM 134649),

新大陸への移住に伴って, このようなカタツムリも食料として持ち込まれたことも想定される。

166. ヒメリングマイマイ (プチグリ) *Cantareus aspersa* (MÜLLER)  
【オーストラリア】ウオドンガ (2exs., ?.?.1974, 谷岡 浩) [AMo-0000518]. 【フランス】パリ郊外南部 (1ex., 17.X.1975, 志村辰夫) [AMo-0000519].

167. アオリングマイマイ (改称; ミドリエスカルゴ [肥後・後藤, 1995]) *Cantareus aperta* BORN (図 13)  
【ギリシャ】アテネ: Acropolis hill (3exs., 3.X.1975, 志村辰夫) [AMo-0000520].

備考: Abbott (1989) の図示した本種に, 「ミドリエスカルゴ」の“和名”が与えられている (肥後・後藤, 1995)。しかし, 報告者は, 「エスカルゴ」は外来語であり, またフランスでの食用カタツムリ類一般にも用いられる語であることから, 和名として好ましくないと考え。また, 本種は全く緑色をしていないため, 「緑」では誤解を与えるので, “未熟な”という意味での「青」によって, “小形”のリングマイマイという意味で改称した。

#### 謝辞

この貴重なコレクションを快くご寄贈いただいた, 石坂 元氏に厚く御礼申し上げます。コレクションの整理作業に当たっては, 藤田貴壽氏, 大畑厚子氏, 矢野舞依子氏の多大なご協力をいただいた。湊 宏・矢野重文・増田 修・多田 昭の各氏には, 草稿を見ていただき, 多くのご教示を得た。そして査読者の方には, 多くの有益なご指摘を頂いた。記して, 感謝の意を表したい。



図 10a-b. マジヨルカコマイマイ *Theba pisana* (MÜLLER), スペイン・マルベリヤ: コスタ・デル・ソル [AMo-0000512].

## 引用文献

Abbott, R. T. (1989) *Compendium of Landshells*. American Malacologists, Florida, U.S.A., viii + 240 pp.

安藤保二・波部忠重 (1981) 陸産貝類図説 (2). クビキレガイ属 *Truncatella* とクビキレガイモドキ属 *Cecina*. ちりぼたん 12(4): 79-82.

安藤保二・波部忠重 (1983) 陸産貝類図説 (3). ヤマキサゴ属 *Waldemaria* Wagner, 1905 とハコダテヤマキサゴ属 *Hemipoma* Wagner, 1905. ちりぼたん 13(4): 88-91.

浅見崇比呂 (1994) 遺伝. pp. 177-215. In: 波部忠重・奥谷喬司・西脇三郎 (編), 軟体動物学 上巻, サイエンティスト社, 東京.

東 正雄 (1995) 原色日本陸産貝類図鑑 増補改訂版. 保育社,



図 11a-b. サラセンマイマイ *Otala lactea* (MÜLLER), スペイン・マルベリヤ：コスタ・デル・ソル [AMo-0000516].



図 12a-b. ソバカスサラセンマイマイ *Otala punctata* (MÜLLER), スペイン・バルセロナ [AMo-0000517].



図 13a-b. アオリンゴマイマイ *Cantareus aperta* BORN, ギリシャ・アテネ [AMo-0000520].

- 大阪, xvi + 343 pp.+ 80 pls.
- Bodon, M., Favilli, L., Giusti, F. and Manganelli, G. (1995) Gastropoda Pulmonata. 16:1-60. In: Minelli, A., Ruffo, S. and La Posta, S. (eds.), *Checklist delle specie della fauna italiana*, Bologna, Italy.
- Fukuda, H. and Mitoki, T. (1995) A revision of the family Assimineidae (Mollusca: Gastropoda: Neotaenioglossa) stored in the Yamaguchi Museum. Part 1: Subfamily Omphalotropidinae. *Bulletin of the Yamaguchi Museum*. (21) :1-20.
- 福田 宏・鹿野康裕 (1986) 山口県竹島の陸産貝類相. 特に島嶼矮小型コベソマイマイについて. *南紀生物* 28(2): 125-130.
- Gould, S. J. (1969) An evolutionary microcosm: Pleistocene and Recent history of the land snail *P. (Poecilozonites)* in Bermuda. *Bulletin of the Museum of Comparative Zoology*. 138: 407-531.
- 波部忠重 (1961) 続原色日本貝類図鑑. 保育社, 大阪, xiv + 183 + 42 pp. + 66 pls.
- 波部忠重(1962) 淡水棲有肺類の類縁. *Venus* 22(2): 214-216.(要旨)
- 波部忠重 (1973) 軟体動物. pp. 309-341. In: 上野益三 (編), 川村多實二原著 日本淡水生物学, 北隆館, 東京.
- 波部忠重 (1977a) 貝の知理可悟 (10). *Helix blakeana* はレブンマイマイと同種. *Venus* 36(3):187-188.
- 波部忠重 (1977b) ジェイの記載した日本産貝類 4 種の模式標本. *ちりぼたん* 9(8):153-156.
- 波部忠重 (1990) 日本産非海産水棲貝類目録 (その 2). *ひたちおび* (55): 3-9.
- 波部忠重・小菅貞男 (1966) 原色世界貝類図鑑 II 熱帯太平洋編. 保育社, 大阪, ix + 194 pp. + 68 pls.
- 波部忠重・小菅貞男 (1967) 標準原色図鑑全集 3 貝. 保育社, 大阪, xviii + 223 pp. + 64 pls.
- 早瀬善正・波部忠重 (1993) シメクチマイマイの生殖器の地方変異. *ちりぼたん* 24(2): 36-39.
- 肥後俊一・後藤芳央 (1995) COMPENDIUM OF LAMDSHELLS by R. Tucker Abbott, PH. D. (1989) 和名表. エル貝類出版局, 八尾, 大阪, 83 pp.
- 堀川安市 (1964) 長崎県産貝類目録. 長崎県生物学会, 長崎, x + 92 pp., 1 map.
- 石坂 元 (1985) 北海道貝類採集記. *ひたちおび* (東京貝類同好会) 41: 5-6.
- 板垣 博・今井源四郎 (1960) 北海道におけるモノアラガイの種類と分布. *ちりぼたん* 1(2): 41-42.
- 狩野泰則・後藤好正 (1996) 横浜市の陸産貝類. 神奈川自然保全研究会報告書 (14):43-106.
- 加藤 真 (1981) 北海道産カナマルマイマイによせて. *Isokojiki* (45): 10-13.
- 鹿取秀雄・波部忠重 (1990) ヤマキサゴの異常型. *ちりぼたん* 21(3): 59.
- 川名美佐男 (2007) カタツムリの世界 [マイマイ属]. 近未来社, 愛知, 332 pp.
- 清末忠人・谷岡 浩・石坂 元・中島良典 (1976) 鳥取県の陸産貝類. 鳥取県立博物館研究報告 (13): 1-33.
- 黒田徳米 (1956) 日本及び隣接地域産陸棲貝類相 (2). *Venus* 19(2): 132-142.
- 黒田徳米 (1963) 日本非海産貝類目録. 日本貝類学会, 東京, v + 71 pp.
- 黒住耐二 (1997) 丹沢山地の陸産貝類. pp. 326-328. In: (財) 神奈川県公園協会・丹沢大山自然環境総合調査団企画委員会 (編), 丹沢大山自然環境総合調査報告書, 丹沢山地動植物目録, 神奈川県環境部.
- 黒住耐二 (2001) トキとタニシ水田の変遷を示す動物たち. *BERDER* 15(4): 30-33.
- 黒住耐二 (2004) 植物検疫で確認される陸産貝類の分類と同名. *名古屋植物防疫情報* (471): 2-3.
- 黒住耐二 (2007) 貝類. pp. 61-71. In: 富士北麓生態系調査会 (編), 富士北麓水域 (富士五湖) における生態系多様性に関する調査報告書, 富士北麓生態系調査会, 山梨.
- 黒住耐二・成毛光之・渡辺富夫 (1993) 千葉県高宕山周辺の陸産貝類相とその特徴. *千葉中央博自然誌研究報告* 2 (2): 145-149.
- 黒住耐二・岡本正豊 (1996) 千葉市の貝類 2 - 湾岸域の貝類相 -. pp. 623-685. In: 千葉市野生動物植物の生息状況及び生態系調査報告書, 千葉自然環境調査会, 千葉.
- 黒住耐二・志村智子・糸岡栄博・林尚子 (2005) NACS-J 自然しらべ 2004 カタツムリをさがそう 結果レポート編. 自然保護 (484), 付録.
- \*Mabille, J. (1888) De quelques coquilles nouvelles. *Bulletin de la Société philomathique*. (7): 73-82.
- 前田和俊・太田 秀・鹿野康裕・上島 励 (1987) 横須賀市自然博物館所蔵平瀬貝類標本目録 (II) 前鰓亜綱, 有肺亜綱 (オナジマイマイ科を除く). 横須賀市博物館資料集 (11): 1-71.
- Martins, A. M. F. (1996) Relationships within the Ellobiidae. pp. 258-294. In: Taylor, J. (ed.), *Origin and evolutionary radiation of the Mollusca*, Oxford University Press, UK.
- 増田 修 (1995) 兵庫県産陸水性貝類 IV. オカミミガイ科・サカマキガイ科・モノアラガイ科・ヒラマキガイ科・カワコザラガイ科, 兵庫県産水生物 (46): 36-45.
- 増田 修・内山りゅう (2004) 日本産淡水貝類図鑑② 汽水域を含む全国の淡水貝類. *ピーシーズ*, 東京, 240 pp.
- 松岡敬二 (2001) ため池の淡水貝類. *ため池の自然* (34): 9-11.
- 湊 宏 (1983) コベソマイマイとその近縁種について. *南紀生物* 25(1): 28-33.
- 湊 宏 (1988) 日本陸産貝類総目録. 日本陸産貝類総目録刊行会, 白浜, 和歌山, x + 294 pp.
- 湊 宏 (1994) 日本産キセルガイ科貝類の分類と分布に関する研究. *Venus, suppl.* 2: 1-212, 5 tab., 74 pls.
- 湊 宏 (1999) H. ノルドジク著 (1998) 湊 (1994) によって提唱された日本産アジアギセル亜科の分類の再検討. *Venus* 58(1): 25-30.
- 湊 宏 (2004) 秋田県北部で採集された“ハクサンケマイマイの類似種”. *ちりぼたん* 35(3): 90-93.
- 湊 宏・石坂 元 (1989) 知床半島で見つかったクリイロキセ

- ルガイモドキの記録とその分布. ちりぼたん 20(1/2): 15-18.
- 湊 宏・多田 昭 (2000) 四国のシメクチマイマイ種群の生殖器の形態とその分布. ちりぼたん 31(1): 3-10.
- Miyazaki, J., Ueshima, R. and Hirabayashi, T. (1988) Application of a two-dimensional electrophoresis method to the systematic study of land snails of subgenus *Luchuphaedusa* from southwestern Japan Islands. *Biological Bulletin* 175: 372-377.
- 西 浩孝・曾田貞滋 (2005) ミトコンドリア DNA 分析に基づく中国地方のマイマイ属の系統地理学的研究. ホシザキグリーン財団研究報告 (8): 185-196.
- Nishi, H. and Sota, T. (2007) Geographical divergence in the Japanese land snail *Euhadra herklotsi* inferred from its molecular phylogeny and genital characters. *Zoological Science* 24: 475-485.
- Nordsieck, H. (1998) Critical revision of the system of the Japanese Phaedusinae, proposed by Minato (1994) (Gastropoda: Stylommatophora: Clausiliidae). *Archiv für Molluskenkunde* 127(1-2): 21-32.
- 大原健司・大谷洋子 (2002) 西宮市貝類館所蔵黒田徳米博士標本目録 (1) 非海産貝類. 西宮市貝類館研究報告 (1): iv + 1-139.
- 大原健司・大谷洋子 (2008) ハリマムシオイの模式標本. かいなかま 41(2): 7-8.
- 岡本正豊・奥谷喬司 (1997) 貝の和名. みたまき, 特別号, 相模貝類同好会, 神奈川, 95 pp.
- 岡村一郎・野津 大 (2004) 陸・淡水産貝類. xiv + pp. 189-203. In: (財) ホシザキグリーン財団 (編), 改訂しまねレッドデータブック～鳥根県の絶滅のおそれのある野生動植物～, 鳥根県環境生活部景観自然課.
- 大山 桂 (1944) 中支那のタニシについて. 上海自然科学研究所彙報 14(1): 44-48.
- Pilsbry, H. A. (1901a) Notices of new land shells. *Nautilus* 14: 115-117.
- Pilsbry, H. A. (1901b) New land shells from the Loo choo islands and Japan. *Nautilus* 15: 18-24.
- 鹿間時夫 (1964) 原色図鑑 続世界の貝. 北隆館, 東京, 8 + 212 pp. + 70 pls.
- 自然環境研究センター (編) (2002) 生物多様性調査 動物分布調査 (陸産及び淡水産貝類) 報告書. 環境省自然環境局生物多様性センター, 山梨, 1342 pp.
- 反田栄一 (1978) 関東南西部のコケラマイマイとカドコオオベソマイマイの生殖器について. *Venus* 36(4): 181-190.
- 多田 昭 (2008) 京都市周辺部におけるゴマガイ類について. かいなかま 42(1): 14-16.
- 高田良二・波部忠重 (1991) *Euhadra sandai* (Kobelt, 1879) はニシキマイマイ. ちりぼたん 21(4): 85-86.
- 高橋五郎・岡本正豊 (1969) 福岡県産貝類目録. 自刊, iii + 154 pp.
- 高橋 茂 (1984) 群馬県陸産および淡水産貝類目録 付 陸軍特別大演習関係記録. 自刊, 190 pp. + 28 pls.
- 高橋 茂 (1990) 群馬県陸産および淡水産貝類目録 (追加種および追加産地). 自刊, (10 pp.)
- 瀧 庸 (1940) 満州産陸水貝類. pp. 89-104, 8 pls. In: 川村多實二 (編), 関東州及満州国陸水生物調査書, 関東州廳土木部.
- 上島 励 (1987) 陸産貝類. pp. 377-380. In: 軽井沢町誌刊行会 (編), 軽井沢町誌, 自然編, 軽井沢町誌刊行会, 長野.
- 上島 励 (1995) 陸産巻き貝の種分化と分子系統解析. pp. 155-167, 261-262. In: 馬渡俊輔 (編), 動物の自然史, 北海道大学図書刊行会, 札幌.
- Ueshima, R. and Asami, A. (2003) Single-gene speciation by left-right reversal. A land-snail species of polyphyletic origin results from chirality constraints of mating. *Nature* 425: 679. (\*with supplementary information: <http://www.nature.com/nature/journal/v425/n6959/supinfo/425679a.html>)
- 上島 励・長谷川和範・齋藤 寛 (2000) 皇居の陸産および淡水産貝類. 国立科博専報 (35): 197-210.
- 渡辺正雄・榎本恵美子 (訳) (1988) ギュリック, A. 貝と十字架—進化論者宣教師 J. T. ギュリックの生涯—, 雄松堂出版, 東京, xv + 442 pp.
- 矢野重文 (2002) 四国産ムシオイガイ科貝類. まいご (10): 10-15.

\*直接参照できなかった。